

STRANGE FOLK

KULA SHAKER FANZINE

ISSUE NO.4
MAY 2008
[日本語版]

EXCLUSIVE
INTERVIEW with
Crispian

AFTER THE TOUR
**Reviews &
Impressions**

GET TO KNOW

Simon Roberts & Dr Joel

Gigs, incense and more gigs!

親愛なるみなさんへ

信じられないことと思いますが、ついに STRANGE FOLK は帰って来ました！ 唯一無二の Kula Shaker ファンジン(いつも通り、フリーダウンロードでご提供しています) は、2 年間で 4 冊発行されました。

なんという号なんでしょう、これまで以上の独占記事をご期待ください！

根気強く待った末に、ついに本誌は、我々の心を苦しめていたいくつかの質問に対し、Crispian から回答を得ました。いい回答が得られたと思います。このインタビューに関して、Paul Winterhart のことを忘れるわけにはいきません。Paul は今みなさんが読まれているプリント版の P.21 ~ 24 を手に入れるのに力を貸してくれたのです。

ですが、今号はそれだけではありません。Don Pecker からもう一度、Guru Madness の独占コラムを寄稿して頂きました！

それから、Yasmin と Tazeen Khatib が去年おこなった Paul と Harry へのインタビューの掲載を頼まれたので、もちろん引き受けました！ P.33 ~ 36 に特別記事として掲載してあります。

さらに、本誌はシーンの裏側にも目を向けました。Dr Joel は Kula Shaker をどう思っているのでしょうか？ Simon Roberts は Kula Shaker に対する仕事にどう対応しているのでしょうか？ すべては、次のページから明らかになるでしょう。そして、これはファンジンなので、前回のツアーに関するすべてが分かるでしょう。



Enjoy!

Andrea & Dan



Check out the STRANGE FOLK fanzine Myspace at:
WWW.MYSPACE.COM/KULAFANZINE

Contents

- 2** あいさつ
- 3** 目次
- 4** NEWS & GOSSIP
- 5** Dr. Joel インタビュー
- GIG REVIEW SPECIAL: EUROPE & JAPAN**
- 10** Hamburg 10月29日
- 13** Tokyo 1月17日
- 16** Bologna 2月22日
- 17** Cologne 2月26日 & Groningen 2月28日
- 19** ライブ写真
- 21** Crispian インタビュー
- 25** KULA SHAKER KICK OASIS' ARSE
- 26** GURU MADNESS コラム
- 28** KULA 機材コーナー Crispian のギター!
- 30** Simon インタビュー
- 33** 特別記事! Paul & Harry インタビュー
- 37** KULA PARK ファン・アート by Andrea

Contributors

Editors:

Andrea Zachrau – text, photos
(hosannah@t-online.de)

Daniel S. Taylor-Lind – text, photos
(smokinmojo@hotmail.com)

Layout:

Anni K., assisted by Andrea
(anni.kotisalo@gmail.com)

Cover photo:

Simone Cecchetti

With special contributions from:

Don Pecker
Valeria Mastri
Mary Nilsson
Yam (TheMusicalElitist)
Mayuko
Yasmin & Tazeen Khatib
+ photos from various people

日本語訳:

Mayuko
Mizuho

※訳者より:

これは、オリジナル版発行者である Andrea さんの許可を得て和訳してあります。また、原文中のスラング、ジョークは上手く訳せていない／訳していない箇所があります。読み苦しいところがあるかと思いますが、訳者は英語上級者ではありませんのでお許しくださいね。(英語が読める方は、オリジナルの英語版を読むことをおすすめします!)

Check out the STRANGE FOLK fanzine Myspace at:

WWW.MYSPACE.COM/KULAFANZINE



News & Gossip

FESTIVAL DATES

Kula Shaker が今年最初に参加したフェスティバルは、5月上旬にオランダ・ハーレム市で行われた Bevrijdings Pop フェスティバルです。今のところ、他に4公演への参加が発表になっています。

6月20日 Murcia Sound (スペイン、ロルキ)

6月29日 Parkpop (オランダ、ハーグ)

7月5日 Guilfest (イギリス)

8月15日 Ola! Festival (スペイン、エル・エヒド)

MUSIC VIDEO NOMINATION

Brit Award ではなく、ヨーロッパの音楽賞でもありませんが、Kula のビデオ "Drink Tea (for the love of God!)" が、フランスのアヌシー・アニメーション・フェスティバルのベストミュージックビデオにノミネートされました！ このビデオを制作した Model Robot 社の Sean と Jason の幸運を祈ります。このフェスティバルは、6月9日(月)～14日(土)まで開催されます。

ノミネートされたビデオはこちら：

<http://www.youtube.com/watch?v=O5jTXdiBwas>



ALBUM PLANS

春のツアーを終えた後、Kula メンバーは少しの間休暇をと

りました。Paul の話によると、現在までに新曲を数曲レコーディングしているでしょう。「きっと Crispian は、できるだけ早く僕らをスタジオに集めるつもりだよ」と Paul は話していました。彼は年内にアルバムをリリースすることはないと思っているようです。

SPECIAL GUEST

ロンドンの Shepherd's Bush でのライブには、数名の特別な招待客が招かれていました。Paul の2人の小さな娘さん達は、パパの演奏を見ることを許されたのです。「3曲目以降は退屈していたと思うよ」と Paul は笑っていました。

GETTING ALONG...

前回のツアーの間、Kula メンバーはホテルの部屋をシェアしなくてはなりませんでした。Paul は Crispian と、Alonza は Harry と寝室をシェアしました。

OLD ARTICLES

過去のことを調べたい人へ、Ian が自身のホームページに Kula の古い記事をアップしてくれています。

<http://www.drykid.ukfsn.org/kulashaker/>

安っぽい記事や、多くのナンセンス、スワティカについての Crispian のコメントの背後にある真実を読むことができます。

NEW ALBUM SCOOP

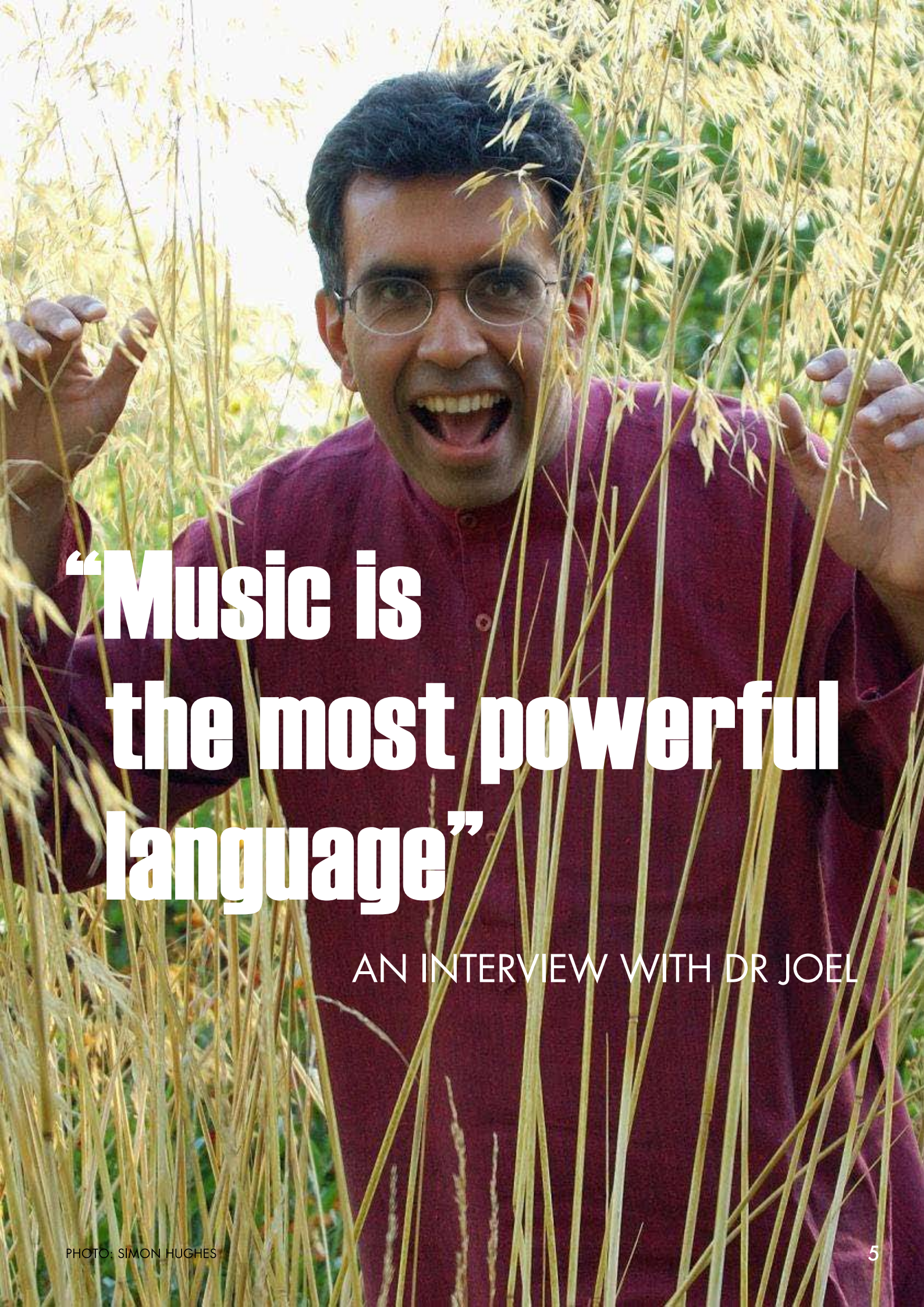
2月に、日本の雑誌に Crispian のインタビューが掲載されました。新しいアルバムについてのいくつかのプランを明らかにしています。

「今日は特ダネをあげるよ。恐らく次のアルバムでは Kula Shaker 自体がさらに大きくなるだろうね。つまり、僕らの家族や音楽仲間達と新作を作るんだ。でも新しいメンバーが加入するということではないよ。うーん、なんていうか、新しいプロジェクトになると思うんだ、"Presented by Kula Shaker" みたいな」「次のアルバムはインドのサウンドをもっと取り入れて、もっとアコースティックなアルバムになるよ。すごくユニークで、僕らが今まで作った中で1番のアルバムになると思う」

Studio album chart positions:

Album	US Bb/	US Hs*	UK	SWI	NLD	NZ	NO	AST	BE	FN	SE	JPN
K	200	11	1	-	22	23	19	-	47	22	20	13
P, P & A	-	-	8	41	63	-	6	31	38	17	26	21
Strangefolk	-	-	69	-	57	-	-	-	-	-	-	32

*US Billboard 200/ US Heatseekers

A man with dark hair and glasses, wearing a maroon shirt, is smiling broadly and holding up tall, thin stalks of grass or reeds. The background is a soft-focus field of similar plants. Overlaid on the image is a large white quote.

**“Music is
the most powerful
language”**

AN INTERVIEW WITH DR JOEL

Divine Intervention

by Andrea Zachrau

誰が彼を忘れるだろうか？ —— Dr Joel は、Kula Shaker が今までにツアーを共にしたサポートアクトの中で最も変わっている。観客は彼と共にトラのように呻き、狼のように遠吠えする。しかし、Dr Joel とは誰でしょう？ どうやって世界一のバンドと知り合えたのでしょうか？ 本誌は Konnakol (※訳注：口だけで早口なリズムを奏でる、伝統的な南インドの歌唱法) の達人に、音楽と Kula Shaker、そしてイタリア人の仲間である The Companeros (※訳注：Kula が Dr Joel と共演したときのバンド名) への思いを聞いた。

音楽に初めて触れたのはいつですか？

耳で音を聞き分け始めたのは、3歳の時らしい。6歳で曲を作り始めていたよ。

どこでリズムの言語を学んだのですか？

Konnakol というリズムの言語を学んだのは、南インドのマドラス (今はチェンナイという名に変わっている) で。マドラスはタミル・ナードゥ州にあって、King Kulashékara が住んでいたスリランガムみたいなところさ。マドラス / チェンナイには、インドで最古の、主要なリズムアカデミー Sri Jaya Ganesh Tala Vadya Vidyalaya (Jaya Ganesh Academy of Rhythm) があるんだ。私の以前のグルである Sri T.R. Harihara Sarma が設立した学校なんだ。彼の息子、Sri T.H. Subash Chandran は、“King of Konnakol” として知られているよ。私は Subash Chandran の元でも学んだんだ。彼と彼の兄の Sri T.H. “Vikku” Vinayakram とは、“J G Laya” (Jaya Ganesh Laya) というトリオで一緒に演奏したんだ。偶然なんだけど、Vikku は、Crispian が参加したことのある、インドで最初のコンサートのメインアクトだったんだ！ Vikku は Grateful Dead の Mickey Hart と一緒に作った「Planet Drum」 というアルバムでグラミー賞を獲ったんだよ。だから、Kula Shaker が「Jerry Was There」を演奏しているのを聴くことはとてもうれしいんだよ。すべての点が繋がったように感じるんだ。

私が Jaya Ganesh アカデミーの出身ということは、大きな特権でもあったんだ。サウサンプトンで、Ganesh Chaturti (Ganesh の誕生日) に Kula Shaker の 2007 年最初の“大きな”ツアーの開始を助けるにあたってた。私はすでに、Ganesh のラーガ (インド音楽の旋律定型) である Raga



Hamsadhvani という曲でのパフォーマンスを始めることを計画していた。観客全体が私と “Genapati Bapa Morya!” と合唱したんだよ。

インドでは Ganesh を “障害を消すもの” と見なしているんだ。Ganesh Chaturti が Kula Shaker がこの先のいかなる障害をも切り抜ける助けになってくれることを望んでいるよ。

私が始めてラジオ番組に出演したのは子供番組で、7歳の頃だったと思う。Sheila Chandra から Konnakol のレッスンの引き合いがあった後、(Konnakol を) 教え始めた。Sheila は Monsoon っていうグループのメンバーだったことと、“Ever So Lonely” という曲で有名になったんだよ。

あなたの音楽をどのように説明しますか？

私のソロでのパフォーマンスは、少し独特だね。Konnakol ロックとでも言われるのかな？ 私はリズムが好きで、言葉の持つ力が好きで、笑うことが好きなんだ。ソロでのショーは、それらの罪のある楽しみが許されるのです。同時に、できるだけ音楽的でいようと思います。作曲には少々力を入れているんだよ。“この感覚に覚えがある”と思わせて、できればその曲が人々の心を掴んで離さないような、そんな曲作りを心がけているんだ。理解のあるミュージシャンが、音楽的に何をしているのか見抜いてくれたら、なお良いよね。観客には、経験を可能にする技能に気づいてほしいけれど。私はただ素晴らしい時間を過ごしてほしいだけなんだ。そしてなんとかして、歌で感動していると感じてほしいんだ。

私の音楽にはまったく違う面もある。私は現代クラシック作曲家でもあるんだ。オーケストラ全体の音の色彩を動かすこの

種類の創造性の挑戦と機会を楽しんでいるよ。誰も冒険したことのない音楽の分野に行ってみたいんだ。暗闇を歩くようなものだけど、特定の技術の専門的知識は助けになる。この挑戦は、ただクラシック音楽の多くの大作を模倣するんじゃなく、魂をかきたてる何かを作ることだ。

あなたを奮い立たせるものは何ですか？

シンプルかつ人を感動させる素晴らしい曲を書く作曲家に感銘を受けているよ。あとは素晴らしい詩を読むことが好きなんだ。インドのクラシック音楽と現代の西洋クラシック音楽も、素晴らしいロックグループと同じくお気に入り。人と人との関係を観察し、書くことにも飽きません。もし人の心の中の言葉を盗み聞きできるなら、朝から晩まで聞いているだろうね。何が人を動かすのか、試して、理解するのが好き。男性と女性の間での時々異なる感じ方に特に引き付けられるんだ。

パフォーマンスをしてる間は、観客とパフォーマーが共に作り出す喜びが一番私を奮い立たせるね。恐らく、服を着た状態で最も楽しめることだろうからね。

Kula Shaker にはどのようにして知り合ったのですか？

Kula Shaker から連絡してきたんだ。神が介在していたに違いないね。彼らの仕事は知っていたんだ、遠方からそのコンセプトに感心していたよ、曲名は挙げられなかったけどね。ロック+インディアンミュージックというのは、好きな音楽の混合で、それ以上のものはないし、Kula Shaker 以上に説得力があるものがないよ。

突然電話があったんだ。Krishna からだった。彼は Pauli を内々でやるショーに連れてきたんだ。それは Bucky の Joff のサプライズ・バースデイパーティーだった。Paul はそれから私に連絡してきたんだ。

それからちょっとして、Crispian と彼の家族が、インドのタミル・ナードゥ州のコダイカナルへ行ったことがあることを知ったんだ。私が以前住んでいたところだ。美しいところだよ、標高 2,000m くらいのところにある小さな湖のそばにある街で、原生林からそう遠くなく、滝と素晴らしい野生動物がいる。私達の行く手が私達の認識なしで交差したことは、偶然の一致以上のことかもしれないね。

Kula Shaker をサポートするのはどんな感じでしたか？

音楽的にも、ましてや精神的にも、こんなにしっくりきたことがない。普段、誰かのサポートにつく時は、メインにスポットを浴びる人の手助けをするのが義務だから、少し遠慮するんだ。Kula Shaker が音楽以外のなにものでもないことは、最初から気づいていたよ。いずれにせよ、私が Kula Shaker のためにできる一番のことは、遠慮はせず、自分の音楽色を薄めることはしないということだ。彼らの音楽にはたくさんの意義と力がある。私のベストは、Kula Shaker のメイン料理と一緒に出て来る、素晴らしい食前酒・ワインとして事足りるにほかならないだろうね。

驚き且つ嬉しいことに、時折彼らの詞が深い部分を突いているのが分かったんだ、人の人生における実在的な問題とかね。私は、分子と物理学の力が、人間主体の経験の事実を説明するのに十分であると一度も思ったことがありません。たくさんの聡明な神経生理学者たちが私の懐疑論を共有しているんだ。私は、人間は分子以上のものであると信じています。恥ずかしがらず、このような疑問を論じ合える音楽仲間と共にいることは素晴らしいことでした。“人知を超えて、ひとつであり、ひとつでないもの”と歌うロックグループは世界中にあまりいない。こういう歌は、何人かの評論家が言うように一時の流行を追いかけるものからは出来ません。人間がいつも問う傾向のある類の疑問に取り組むことから出来てくるんだ。

私は Kula Shaker の音楽に対して誠実に傾倒する姿にも喜びを感じたんだ。音楽とは、お金や名声のために乳をしぼられる単なる牛ではないと思う。世界中で最もパワフルで、神秘的な言語なのです。もしお金や名声のためだけに音楽と結婚するならば、その結婚はダメになる。一方、音楽と恋仲ならば、人々は多くの場合、（作り手によって）開かれた窓の中にある、音楽の不思議な世界を見つめる特権の対価を払うでしょう。

矛盾しているように見えるけれど、音楽界での成功を維持するのに最善の方法は、恐らく音楽に徹底的に恋をすることなんだ。そうでなければ、生涯続く音楽との関係は、浅はかなものと涙の結末に基づいた、簡素で汚い事柄に変わる可能性がある。Kula Shaker の音楽への傾倒は、音楽との末永く幸せな結婚の前兆となると信じているよ。

私が過去に行ったたくさんのロックショーで聞いた音楽から受けた印象は、耳をつんざくような、いい加減なものにすぎなかった。Kula Shaker の最高のライブを見た後は、まるで美しい音楽の雲の上で漂っているかのような感覚になる。“Govinda”はいつも私のお気に入り、頭の中で歌が鳴り響いた状態で帰るのは素敵だよ。

ツアーでのゴシップは何かありますか？

あるよ。でも話さないって奴らと約束したんだ。小人達のこととか、オバケのこと、フォーク状の稲妻、踊っている象、オレンジ色の月とか、午前 0 時きっかりにシャンパンボトルで優しく突つくとブルーチーズが這い始めることが出来る方法とか。

おっと、すでにしゃべりすぎたかな？

“The Companeros” のアイディアは、誰が思いついたのですか？

Krishna だよ。それに Kula Shaker が賛成したんだ。私もね。

Kula Shaker との演奏はいかがでしたか？

良質のアームチェアに沈んでいるようだったよ。各々がソリストだと思っている素晴らしいミュージシャンたちから成るグループは簡単に見つかる。でも、メンバーそれぞれが作曲家



やプロデューサーだと思っている、サウンド全体を聞いたり、それによってそれぞれの貢献を調整したりするグループはなかなか見つからない。Kula Shaker は、(全体の音を)ちゃんと聴いているグループなんだ。それが彼らそれぞれのパートがとてもよく溶け込んでいる理由だね。特に会場と音が良い時にはね。

これはサイドプロジェクトなのでしょうか？ 私達はインド人とイタリア人のコラボレーションをもっと期待しても良いのでしょうか？

すべては散髪代次第だね。太りすぎの取巻きがいるんだ。インド人とイタリア人のコラボレーションについてまわる、口髭を生やしたメソポタミアの理髪師たちだ。彼らが酔っ払ったら、私らのライブが痛手をこうむるようなことをしがちなんだ。そのような不利な状況では、私は最後の手段としてひとりでパフォーマンスしなければならなかった。僕のイタリア人の友達たちは、英語の速修講座も受けているんだ。“困惑させる”なんていう、英語の歌を書くには不可欠の単語を習っているよ。すべての文章でウェブの翻訳サイトを頼りにするのは苦痛だからね。

コンピューターが壊れる前にイタリア語の一文を見た限りでは、私たち全員を、即興で作った手話に変えている。一度イタリア人の仲間達が英語を習えば、もっと素晴らしい歌を期待出来る。“Something Dangerous”という歌は影に隠れたヒット曲だと思うよ。もっと良い歌ができるに違いないね。

Dr Joel の音楽はどこで買えるのでしょうか？

2008 年にはアルバムを出したいと思っているよ。

次にイギリス/ヨーロッパで演奏するのはいつですか？

(今は) パフォーマンスでの表情や外観を引き締めるのに集中しているんだ。だからたくさんの日程はこなせないんだよ。たぶんいくつかのフェスティバルと、あちこちでの臨時のメインでのショー、プライベートパーティーが1、2回かな。私のパフォーマンスを次のレベルまで持っていきたいんだ、もっと深く人を感動させる音楽的な経験を提供してね。いつかはやりますよ。



Dr Joel についての情報はこちらをご覧ください。

<http://www.myspace.com/drjoelmusic>



Europe & Japan

REVIEWS
AUTUMN 2007
SPRING 2008

SOME FAN EXPERIENCES
OVER THE NEXT TEN PAGES



Wishes come true

HAMBURG, OCT 29

by Anni Kotisalo

PHOTOS: ANDREA ZACHRAU

その日の晩は、数人の友達をダウンタウンで探すことから始まりました。Andrea と、彼女のボーイフレンドである Sebi、Sebi の兄弟の Tibor に、Andrea の友達の Caro です。飛行機がフールスビュッテル空港に到着したのは、定刻より早い12時を少し回ったところで、少し強めの北風が吹き続けていた。それは素敵な驚きでした。午後は街中を歩いてまわり、前回ハンブルグに来た時のことを思い出した。それは10年前、Kula Shaker のファンになった時と同じ頃です。

私は Tibor と会おうとしていたセントラル・ステーションから安心な範囲以内で行動しました、なぜなら道に迷いたくなかったから…。ラトハウスへ向かって歩いていた時、馴染みのある感覚が私を襲った。この場所は覚えがある。私、前にここに来たことがあるわ。年月が経ってもまだ覚えてる！ 結局、4時過ぎに Tibor と落ち合って、Andrea と Caro に会うことになっている Markthalle を探しました。何回か道を間違えつつも、何度も地図を見て、なんとか彼女達を見つけました。そしてレーパーバーンへ車で向かい、今日のライブ会場である Grunspan に程近い場所に車をとめた。

まだ夜も早い時間に、食事するところを探し、この後のことについて話をしました。ピザを食べた後、Andrea はインタビューをするために Grunspan へ戻っていき、残った私達はレーパーバーンへと歩きました。Tibor と Caro は、その土地

の珍しい場所へいくつか案内してくれたり、その限界での普段の夜遊び事情の話をしてくれました……それはアムステルダムでのたくさんのことを思い出させました。全体の雰囲気は、良い面や悪い面が共存していて、生活のあらゆる面を受け入れる空気を持っていました。良質なストロベリー・ジュースは、歩いている間に空になった。

インタビューを終えた Andrea がいる Grunspan へ戻り、Sebi と落ち合いました。メンバーはツアーバスと会場の間を急いで行ったり来たりしていて、外に立っている私達の横を素早く通り過ぎて行きました。私達はコートや荷物を車の中に置き、会場の中に入ることにした。場内は一面黒とダークレッドで、初めて Kula Shaker を見るのにとってもぴったりの場所でした。まだ前方にはあまり多くの人はいなかったので、ステージ側の Harry のキーボードの右下あたりに場所を確保し、飲み物を手に開演を待った。

はじめに、ドイツ人男性がアコースティックギターで数曲演奏しました。彼はアメリカなまりだった。アメリカで育ったと聞きました。曲は良かったけれど、私達のおしゃべりよりも引き付けるものではありませんでした……。次は Dr. Joel。なかなかのキャラクターで、Myspace の宣伝が書いてあるキーボードで演奏し、足首には鈴を巻きつけていた。彼は英語で数曲馬鹿げた歌を演奏しました、声でドラムの音を出したり、観

客も、手拍子をするように言われたことで、すっかり Dr. Joel のショーに夢中になった！ とても楽しかった。(曲はとてもキャッチーだし、「Ravenous like a tiger」という曲なんて、週末中、私の頭から離れなかった！) パフォーマンスの間、Harry がピークに達してるのがステージの横のドアから伺え、Paul は、Dr. Joel と観客を撮影していた。2 人とも満面の笑みを浮かべていました。彼のパフォーマンスを笑わずに見ることができなかったのです。

そしてついに、Dr. Joel の後はみんなが幸せに笑っていたとき、照明が暗くなり、Kula Shaker がステージに上がりました。夢が私の目の前で現実になった。想像が実物の人間になり、音楽が彼らの演奏で生き返りました。

ライブはもちろん“Hey Dude”から始まり、続いたのは“Under the Hammer”、特別な選曲ね！ 次は“Out on the Highway”、ニューアルバムの中でもお気に入りの 1 曲。ライブではすごく良いわね。“Jerry Was There”で Crispian は、まるで Jerry が“彼の子供達”に向けて、愛と命についてしゃべっているかのようでした (Jerry と書かれた大きなバッチをジャケットに付けてもいたし)。これは良かったわ。他のハイライトは、“303”、“Hurricane Season”、“Dr. Kitt”、そして“Hush”でした。後半に向かっていく中で際立っていた曲は“Be Merciful”(いつも素晴らしい) と、全員で合唱した“Song of Love”でした。

ライブは完璧に進行していき、曲が進むに連れて会場の空気はより熱く、興奮状態になった……。観客は夢中になり、バンドものめり込み、何もかもが私が想像していた通りでした。揺れる照明や、それが影に消えて行く様までもが完璧でした。セットリストは新旧入り混じった見事な組み合わせで、それ以上のものはなかったでしょう。

アンコールの“Great Dictator”、“Govinda”の後、私はまだ終わりではないと思った。そしてそれは正しかった。バンドは 2 回目のアンコールのためにステージに戻って来てくれたのです。つまりそれは彼らがライブを楽しんだということで、私はそれが嬉しかった……。隣に立っている Andrea に、本当にまた Kula を見なくちゃいけないわ、と言いました。すっかりハマってしまった！ 最後の曲は“Great Hosannah”と“Sound of Drums”でした。ひとりの男性がライブ中ずっと「Sound of Drums! Sound of Drums!」と何回も叫んでいたから、彼は願いが叶ったわね！ そして私の願いもね。

ライブ後、私達女の子 3 人は会場の外で観客が帰って行くのを見ながら、どうやったらメンバーに会えるかと考えていました。私達の最後の目的は、もし彼らが誰かに会う気分じゃなかったとしたら、彼らを困らせるものでした。ラッキーなことに、Jo (※訳注：Crispian の奥様) がバスへ食べ物を運んでいたの、Andrea が、私のはるばるフィンランドからライ



ブのためにやってきたことを彼女に伝えて、メンバーに会えるかどうかたずねました（ああ、（恥ずかしくて）隠れたかった）。彼女は「まあ！」と驚いて、メンバーに聞きに行ってくれ、そしてまもなく戻ってきて、すごく疲れているから5分間なら良いと言ってくれました。私達は彼女に続いて後方のドアをくぐり、狭い廊下へ入って行った。そして1人ずつ、メンバーは私達に会うためにそこに迷い込んできました……。

最初は Pauli で、私にいくつか変わった質問をしてきました。「ヘビメタは好き？ Pearl Jam は？」彼の知るロンドンに住むフィンランド人はみんな狂ってるとも話してくれました。そして「君も狂ってるの？」と続けて聞かれました。当然私は、たぶん、と答えなくてはならなかった。Pauli は、Dr. Joel を笑っていた（いえ、楽しんでたのよ）Andrea を見ていたとも言っていました。みんな彼のライブはとても楽しかったと同意見だった。そして Crispian がやってきました。「スウェーデンから来たのは誰？」きっとわざとだわ（フィンランド人にとって、スウェーデン人と間違えられることは侮辱なんです）。会話は続き、Andrea は、私が今日当日にフィンランドからハンブルグへやってきたことを伝えました。「長旅だったね。フィンランドのどこから来たの？」「ヘルシンキです」「前に一度行ったことがあるな……」Alonza は頷いていました。

彼らは Andrea と Caro にドイツのどこから来たのか、私達がどうやって知り合ったのか、フォーラムでは何と名乗っているのかなどを尋ねてきました。同じ頃に Alonza と Harry がやって来ましたが、二人はあまり喋りませんでした、私は二人にほとんど気付かなかったことを認めなければなりません。というのも、どんな話をしているのか、Crispian と Jo、Paul が Andrea と話しているのを聞くのに一生懸命集中しようとしていたからです。彼らは全員ファンジンに興味を持っていました。Andrea が3号目が出ていると伝えると「え、本当に？」、そして Crispian は、なぜ自分のインタビューが無くなったのか詳細を話しました（※訳注:本誌3号の Kula のインタビューに Crispian の回答だけ載っていない理由）。コンピューター

が盗まれたからですって！（本当かどうかまだ疑っているわ）

Jo は、何かサインしてもらおうものを持っているか、私達に聞くのを忘れていませんでした。私はライブのチケットに全員のサインをゲットできた！ それから私は彼らに持ってきた物があると言い、バッグから Sisu の包みを取り出しました。そしてこの包みには何が入っているのか、Sisu という言葉の意味を説明しました。「この言葉には、精神の強さ、あなたには勇気があるという意味があります。」Crispian は感心しているように見えた。「それにマラカスと同じような働きもするんですよ！」Crispian は笑って、その包みを手にし、振っていました。（Sisu とはフィンランドの黒くて甘いお菓子で、Kula Shaker が昨冬に無料でリリースした Daniel Johnston のカバー “Walking the Cow” でも触れられています）

Harry は腕にいくつか荷物を持って、バスへ戻ろうと私の横を通り過ぎました。「もう行かなきゃ。会えて嬉しかったよ」「ええ、私も」そう返事をすると、彼は行ってしまいました。私達の5分間は少なくとも15分に延び、そして時間となった。残りのメンバーに別れを告げ、今日のライブのお礼を言いました。Jo は外までついて来て、車へ向かう私達におやすみを言った。そして私達は車内で “Strange Folk” をかけながら帰路についた。



Japan Tour: Shibuya AX

TOKYO, JAN 17

by Mayuko



今年最初の Kula のライブはなんと日本から！ 待ちに待った単独ツアー！ 最初に発表になった東名阪 1 公演ずつのチケットはあっという間にソールドアウト。東京で追加公演が決まったがそれも完売。再追加公演まで決まって嬉しいハプニングだった。

私は初日の恵比寿を仕事でいけなくなってしまったので、私の Japan ツアー初日は今回のツアーで一番大きな会場の SHIBUYA-AX、Kula の日本でのライブ 2 日目。そして演奏曲数が一番多かったのもこの日のライブだった。私は PA 卓そばの 1 階後方の一段高くなっているところを確保！ ステージ全体が見渡せて良い感じ。

オープニングアクトのバンドがたっぷり 30 分演奏した後、さらに 30 分待たされた後、4hero“Les Fleur”が大音量で流れ始め、気分も高まる！ そして SE は Radhe-Radhe に変わり…Kula Shaker 登場！ 前日の 1 曲目が“Hey Dude”だと聞いてしまっていたので、てっきりそれがくるのかと思っていたら、聞こえてきたギターのフレーズは“Sound of Drums”！ 再結成後初のフジロックを思い出す！ あの時も 1 曲目は“Sound of Drums”だった。少し話はそれるけど、あの時のオーディエンスはすごかった……ギターの最初の 1 音でものすごい歓声、Crispian の歌いだし I hear……で雄叫び…みんな全身で Kula の復活を喜んでいたように感じた。さて今回もフジロックのときと負けず劣らずの歓声！ この日この場に集まった 1,700 人の Kula ファンには、半年前の Fuji Rock 振りの再会、解散前の 10 年以上前の Japan ツアー振りの再会を果たしている人もいるだろう。みんなこの瞬間を待っ

ていたのがわかる。そしてそんな再会にこの曲は本当に最適。でも残念だったのはこの曲は音のバランスがイマイチだったこと。この曲の間で立て直していたけれど、Crispian も一生懸命手を上下に動かしてモニターバランスの指示を出していた。(オープニングアクトがあったから多少は仕方がないのかも。)

そして続いたのは“Hey Dude”。久しぶりの Catch the Sun!! え？ もうやっちゃうの？ と驚いたけれど、裏を返せば後半に盛り上がる曲が他にもたくさんあるってこと。いつ聞いてもこの曲のベースラインは最高、こんなに高揚感を煽られる曲は聞いたことがない。もうこの時すでにオーディエンスの頭上をペットボトルが飛んでいた！

Crispian による簡単な挨拶を挟んで、“Out On The Highway”。そしてここで Harry の紹介を挟んで“Second Sight”。オーディエンスの反応は“Out On The Highway”よりも良かった。ビートに合わせて跳ぶ跳ぶ！ そして“Second Sight”から自然に“Jerry was There”へフェイドインしていく。この流れは新鮮！ 魔法にかけられそうなイントロ、歌とオルガンが会話しているかのような掛け合いも心地いい。だんだん叫ぶような歌に変わっていき、叫ぶようなギターソロへと続いていく……今まででこの曲をライブで聴いた中でこのベストワン！ 私の最初のハイライトはこの曲だった。

曲紹介に続いて“Die For Love”。この曲はドラムに耳がいってしまう。CD で聞くよりも遥かにエモーショナルでドラマチックに聞こえるのは、他ならないこのドラミングによるところが多いと思うのは私だけ？ この日のポールの演奏もパワフルで

すばらしかった。

続いてサプライズ! “Into The Deep”が始まった! まさかこの曲が聴けるなんて! まったくのノーマークだったからすごく驚いた。この曲は照明がグルグル回っててキレイだったのを覚えている。何だか違った意味で頭の中がハイになってしまった……。



そしてそのハイな気分の私の頬を平手打ちするかのよう突然「Kick out the Jam, Mother fucker---!!!」Crispianの雄叫びと共にその曲は始まった! そのクラシックな匂いのする4ビートのロックソングは明らかにKulaの新曲ではなく、カバー曲だとわかった。MC5という60年代に活躍したパンクバンドの曲らしい。これはCrispianの選曲なのかしら? こういうカバー曲でバンドのルーツに触れられるのはうれしい。

そしてとうとうきた! “Mystical Machine Gun”! どうやら再結成後、この曲を演奏すること自体、今回のJapanツアーが初めてらしい。ラッキー! イントロが聞こえるや否や、驚きと歓喜の声が沸いた。やっぱりこの曲はみんな好きだね! (そういえばPPAがリリースされた当時、ソニーの乾電池のCMで流れていたなあなんて思い出してみたり……)

そして少しロックな印象の“Shower Your Love”が続く。いつもはちょっとセンチメンタルな印象があるんだけど、今回はなんだか元気な印象だった。

ここでやっとAlonzaの紹介～“Temple of Everlasting Light”のショートバージョン。これはInterludeっぽい扱いだったのか、サクッと終わってしまって、ちょっと物足りない気分……でも次の瞬間、聞こえてきたあのワウギター! “303”! I’m just a just a just a……の大合唱! やっぱりこの曲は盛り上がる! 前号? 前々号のファンジンでこの曲についてのエピソードを読んでいたから、頭の中に絵が浮かぶようになって、倍楽しめるようになった。

(時間的にも) この勢いでラストに向かうのかなと思いきや、まだまだ続いた。“Dr Kitt”が始まって、この曲が聞けるのは嬉しいけど、せっかく“303”で盛り上がったのに、「待て!」と

言われている様で(笑)。この曲って、イギリス、ヨーロッパのファンの間ではかなりの支持率があるらしいけど、きっと日本のファンの間ではそうでもないかな。

さあ、次は何? まったく読めなくなってきた後半戦、聞こえてきたのはこの日2曲目のカバー曲、Caribouの“Melody Day”。前にCrispianが、ここ最近で一番のお気に入りだと言っていた曲。まさか早速自分たちでやっちゃうなんて驚いた(笑)。私はオリジナルを聞いたことがなかったから、この曲をちゃんと聴いたのはこのKulaバージョンが初めて。この曲、日本で60年代後半にブームを起こしたグループサウンズみたい!(もちろん私が生まれる前ね!) 具体的にこの曲に似てる! ってわけじゃないけど、コードの行き方とか、コーラスワークとか、全体の印象としてね。この曲がCrispianのツボだなんて、ちょっと意外だった。

次に聞こえてきたのは鳥の鳴き声、波の音。“Hurricane Season”。頭に浮かんできたのはJack Sparrow……いや、あんなにカッコイイ海賊ではなく、もっとベタな海賊が航海しているシーン。改めて聞くと、結構ベタな海賊ソングに聞こえる。間奏に入るオルガンソロなんて正しく! てっきり続くツアーでまた聞けると思っていたんだけど、この曲と、“Dr Kitt”、“Into The Deep”もAXでしかやらなかった。もっとちゃんと噛み締めて聞いておけば良かった!

遠ざかっていく嵐の中から聞こえてきた、聞きなれたシタールの音色。来た! “Tattva”だ! オーディエンスは両手を上げ、左右に揺れる。ゆらめくライトに照らされて、海草のよう……。目にも耳にも幻想的。この曲の良さをもっと知るにはライブで聴かなきゃ! 間奏のCrispianのハーモニカ“ハレルヤ”ソロもライブじゃないと味わえないんだから! この勢いのままなだれこんだ“Hush”! 待ってましたとばかりにステージに押し寄せる人の波! 物凄い熱気! Crispianは「Ichi, Ni, San, Shi!」と、1234を日本語でカウントしてみせた。オーディエンスにNa Na Na……と歌わせ、1,700人の大合唱が響く。Harryが立ち上がってオルガンを斜めに傾けながら熱奏する姿が印象的だった。もちろん他の3人も気迫の演奏だった、Crispianはサラサラヘアを振り乱して、Paulは全身で、Alonzaは表情はクールだけど汗だくになって



いたに違いないから（遠くて表情までは見えなかった；）。

こう見てみると、4人は絶妙なバランスだな。Jayに代わってHarryが加入したことによって、少しバンドのイメージがポップになった気がする。あくまで私個人の感想ですが。

「ARIGATO, Thank you」という王子（日本でのCrispianのニックネーム）の言葉を聞いて、あ～終わった～と思ったら……あれ？ まだやってくれるの？ 歌い始めたのは“True Love Will Find You in the End”という曲。Daniel Johnstonのカバーだそう。この手の曲はCrispianの声にぴったりだと思う。Jeevasで聞きなれているものもあるかもしれないけれど。すごく心地よくて、さっきのHushの興奮をなだめるかのよう。そして本編最後の曲が始まった。“Song of Love / Narayana”だ！ なるほど、これはこれから一旦ライブを締めくくる新しいスタンダード曲になる。後半、ナラヤナの合唱と、規則正しいリズム、響くホーンセクションが最高の気分させる！

実に19曲を演奏し終わったメンバーはステージを離れた。すぐに湧き上がるアンコール、彼らを呼ぶ声。ものの1分もするとまた戻ってきてくれた。そして何やら前方ではHappy Birthdayを歌いだしたファン達が。そう、翌日はCrispianの誕生日だった！（Harryはその7日前だったみたい！ 知らなかった）照れ笑いするCrispian（笑）

「これは早い時期に書いた曲で、とても馬鹿げた歌なんだ。子供たちが学校や校庭で歌うためのね。あと自由を愛する世界中すべての人達のために。ヒラリー・クリントンだってdickを持っているんだよ！」そう言って始まったのは“Great Dictator (of the Free World)”。この曲はニューアルバムからの先行シングルとして日本では発売されていて、ラジオでも主にかかっていたのはこの曲だったから、新曲の中では一般的に一番馴染みのある曲かもしれない。この曲はライブでこそ楽しめる曲！ 狂ったように歌いギターを弾くCrispianを見るのも一興。Alonzaのあの風貌から発せられる甲高いコーラスも最高だなぁ。一緒に跳んで、一緒に歌いきった後はとても爽快！ 意味もわからずdickと連呼している人が多いに違いないけどね！（笑）そう、この曲が持つメッセージをもっと世界中に広めなきゃ！！

ああそしてとうとうあの曲が始まってしまう！ “Govinda”。とっても緩やかに上昇していくイントロ、開けたときには場の空気が変わっているかのような感覚になる。サンスクリット語で共に歌う英国人と日本人。やっぱりこの曲での一体感は特別。長く伸びるアウトロを聞きながら、終わらないで！ と心の中で叫んでいた。

See you soonと言葉を残してステージを降りたKula。なんと合計21曲！ 大サービスな内容だった。



この日のCrispianは調子がイマイチだったらしくと後から聞いたけれど、私は全くそうは感じなかった。1,700人のオーディエンスと戦いきった4人の戦士。立派だった！

SETLIST

Sound of Drums
Hey Dude
Out on the Highway
Second Sight
Jerry Was There
Die for Love
Into the Deep
Kick out the Jam
Mystical Machine Gun
Shower Your Love
Temple of Everlasting Light
303
Dr Kitt
Melody Day
Hurricane Season
Tattva
Hush
True Love Will Find You in the End
Song of Love / Narayana

Great Dictator
Govinda



SETLIST:
 Sound of Drums
 Hey Dude
 Out On The Highway
 Second Sight
 erry Was There
 303
 Mystical Machine Gun
 Shower Your Love
 Hurricane Season
 Tattva
 Hush
 True Love
 Song of Love

 Great Dictator
 Great Hosannah
 Govinda



Bologna, February 22nd

by Valeria Matri

「じゃあまた、来年の2月か3月に！」
 1999年の解散の後にイタリアで復活
 を見せた、去年の10月のRavennaの
 Bronson clubでの素晴らしいライブ
 の後で、Alonza、Harry、Paul、そして
 Crispianがそう言った。4人はその約
 束を覚えていて、2008年2月、再びイ
 タリアで2回の公演(22日 Turin、23
 日 Bologna)を披露してくれた。私は
 Bologna公演に行ったの。彼氏と、友
 達のFlavioと、10月のライブで知り合
 った素敵な女性、Manilaとその友達
 のNoemi、Pat (Vaisnavi教団の信奉者
 なのよ!)、Michelaと一緒にね！ 明ら
 かに、最初に着いたのは私たちだったわ。
 もうそこにいたのは、PaulとAlonza、
 そしてコックのSalvatoreだけだった！

寒い霧の中で2時間過ごした後、やっ
 とEstragon clubに入れた……そして
 びっくりした、Paulが入り口の後ろにい
 たから……。Paulは入って来る人を数え
 てるみたいだったわ！ そしてショーが
 始まるまで、バーで飲みながら誰にでも
 話しかけてた！一緒に写真を撮っても
 らって、もうライブの準備は出来ての
 か聞いてみたら、「ううん、まだだよ」っ
 て言ってた。まだいつもの準備をしてな

いからなんだって。そしてPaulは走って
 体操を始めたの、何て面白い人なのかし
 ら！

ついにライブが始まって、メンバーが
 “Sound of Drums”と共にステージに
 登場した！Crispianがイタリアの観客
 に挨拶を言って、“Hey Dude”が始まっ
 た……。誰もが楽しそうに合唱してた！
 誰もその懐かしい曲を忘れてなかった
 わ、10年経ってたとしてもよ！ 新し
 い曲のライブバージョンにも観客は凄
 く熱狂してた、特に“Song of Love”
 と“Out on the Highway”、そして
 “Great Dictator”に！ 私にとって一番
 良かったのは間違いなく“Shower Your
 Love”ね、大好きな曲なの！

人生において少なくとも一度でもKula
 のライブを見たことがある人は、確実に
 “Govinda”の時の雰囲気分かるわね
 ……Kulaの背後のスクリーンに映し出
 されたイメージは、すべてを非現実的で
 サイケデリックにした……まるで夢のよう
 に！

……残念なことに、すべての美しい夢
 と同じように、ライブはあっという間に

終わってしまった！でも終演10分後
 に、PaulとHarryが観客と話したり写
 真を撮ったりするために戻って来てくれ
 た！(Harryは日本でのバイアグラ騒動
 の話をして、それから私の友達のPatか
 ら結婚の申し込みを受けたけど、Harry
 は本当に紳士だから、次にPatがロン
 ドンに来た時にこのことを覚えておくよ
 うに言ってたわ！)

それから、ツアーバスの側でCrispian
 に会ったの。疲れてるだろうに、サイン
 やおしゃべりをしてくれて、ファンみんな
 と写真を撮ってくれた。そして、いつも
 のように微笑んでいるAlonzaに、すぐ
 にまたイタリアにツアーに来てってお願い
 しておいた！

Harryが私とAlonzaの写真をツアー
 バスの側で撮ってくれ、素敵なKula
 Shakerとの夜は幕を閉じた。Harryは
 何て素敵な人なのかしら！

Kulaがバスに乗って私たちに「チャ
 オ！」って挨拶してくれたんだけど、何だ
 かホントに昔からの友達とのお別れみた
 いだった！

またすぐにイタリアに来てね！



Chanting for the heavens above

by Andrea Zachrau

COLOGNE, FEBRUARY 26TH &
GRONINGEN, FEBRUARY 28TH

古いチョコレート工場とクラシック音楽ホール —— Kula のライブに似合わない場所はどこにはありません。ケルン（ドイツ）とフローニンゲン（オランダ）は、2008 年初めのヨーロッパツアー最後の 2 会場でした。そして同時に Kula Shaker という魔法のサイケデリックな世界に押し込まれるのは、私達の選択でもありました。

ケルンへの旅は、もし選択権があるのなら断るでしょう。交通渋滞が奇妙なルートで続いていました。GPS は私達に従わず、3 時間の予定が 4 時間のドライブになります。永遠に続くように感じる。でも急ぐ必要はありません —— 私達はずいぶん 16 時にケルンに到着、最初は有名なドームを見に行くことにしました。

この街は何かが違う。ケルンでは普通じゃない日になる予感がする……そのひとつは Harry —— 私達が商店街にいた間に、私達自身がしてたのと同じように、傘に隠れていた Harry に偶然会いました。2 度目は Mr. Mills（残念なことに紙に印刷されていただけだったけれど）。あの名高い Hard Rock Café は、Crispian に入口でお客を迎えさせていました。ドライブしている間には、（雨を）よけるものを何も持たず勇敢に雨の中を歩く Alonza も見かけました。Kula がこの街にいるというこれらのヒントがあっ

たのに、Pauli はどこにいたんでしょう？

それらのサインは、私達をかつてチョコレート工場だった巨大なビル Stollwerck に導いた。この頃では、様々な文化的なイベントがそのビルを活動の拠点にしています。この創造性のある場所に、Kula Shaker よりも似合うのは何でしょう？

フロアはあらゆる年代の人達でゆっくりと埋まっていきました —— 最前列だけはすぐに数人のファンに占領されましたが、今回は平均年齢が凄く低かっただろうと思います。前方右側には 2 人の若い女の子（たったの 11 歳！）を含む家族連れがただでなく、我らが狂気のグル、Don Pecker と良い競争相手になったであろう老いたヒッピーも数人いました。かの有名な “Les Fleurs” が流れた後、Kula はついにステージに現れました —— サポートバンドがいなかったことは全然気にならなかったと言っておかなくちゃね！ Kula から気をそらすものは何もなく、熱狂したオーディエンスはセットリストの曲ごとに盛り上がっていった。なんて素晴らしいセットリストでしょう！ 彼らはとても魅力的な “Hey Dude” からスタートさせ、“Out On The Highway” へと続けました。合間のビデオは大好き、特に Jerry が突然現れるところ！ 私のライブでのお気に

入りはもちろん “Hurricane Season”、“Great Hosannah”、そして “Mystical Machine Gun”。この曲たちは必ず私を身震いさせてくれます。Daniel Johnston のカバー “True Love will find you in the end” はとてもハマっていたし、続いた “Song Of Love” も会場中を魔法で満たしました。歌詞をまったく知らない人達でさえも一緒に口ずさんでいて、きっとここから放たれた愛で天国は揺れていたはず！

最初の（！）アンコールは、子供達が遊び場で歌う曲だという Crispian の曲紹介から “Dictator” で始まりしました。で、子供たちは何かを顔面に押しつけもするですって？ 次は常に私の大好きな曲であって、いつも通り最高の “Great Hosannah”。そしてもちろん、クリシュナ自身と協力している “Govinda”。Kula がクリシュナに捧げた壮大なマントラがその愛をケルン中に降りまく間、クリシュナは観客を見渡していました。

メンバーはステージを去る時、とてもうれしそうで、やまない熱狂的な声援にとっても感謝しているように見えました。Crispian は飛び上がり、大きく親指を立てて見せ、ああ何て言えばいいのか、あるかもしれないと思っていた瞬間が来ました、もう 1 回アンコールしてくれた

のです！ もちろん、それは全員が狂ったような声援を送り続けたこおかげです。かわいそうな Simon はメンバーがステージに戻ってきた時にはギターを急いで戻さなくてはなりませんでした。やった！

Kula は “Temple of Everlasting Light” へ私達を導きました —— そこで演ってくれるなんて驚いたわ！ 今夜、本当のラストソングは “Sound of Drums”。今夜の閉めになんて嬉しい曲……後日 Pauli は、ケルンの観客の何がそうさせるのか分からないけれど、いつもケルンでは 2 回アンコールをすると話してくれました！ UK ツアーや Japan ツアーではやらなかったのに……。

普通は Kula のライブ後、落ち着いた後にやってくる巨大な憂鬱と禁断症状が混ぜ合わさったものに襲われます。でも幸運なことに、私達には楽しみにしているライブがもう 1 回あるので救われました！

2 日後、私達はフローニンゲンへ向かいました。チーズ、花々、地球上で一番のパンケーキ、そしていたるところに運河が流れる街です。ケルンとは違って、私達が着いた時には Kula の気配はあまりしませんでした —— ええと、街のあらゆるところにある、数え切れないほどのコーヒーショップを計算に入れなかつ

たらですが（※訳注：オランダの “コーヒーショップ” は大麻を合法的に買った吸ったり出来る店のこと。ちなみに普通にコーヒーが飲める店は “コーヒーハウス” もしくは “カフェ”）。

Kula は Oosterpoort という、いつもはクラシックコンサートが開かれているとても大きな会場でライブを行いました。よって私達は素晴らしいライティング、大きなスクリーン、完璧な音響でライブを楽しむことができました。

唯一がっかりしたことは、演奏にやや感銘を受けていないように見えたオランダの観客達でした。すべての曲の後には拍手をしていたし、“303” や “Second Sight” では頭をわずかに揺らしてノッていたけれど、でもそれだけ！ 後方には座席があるエリアがあったんだけど、何ていうか……すべての席が埋まっていたんです！ どうやったら Kula のライブで座っていられるの！？

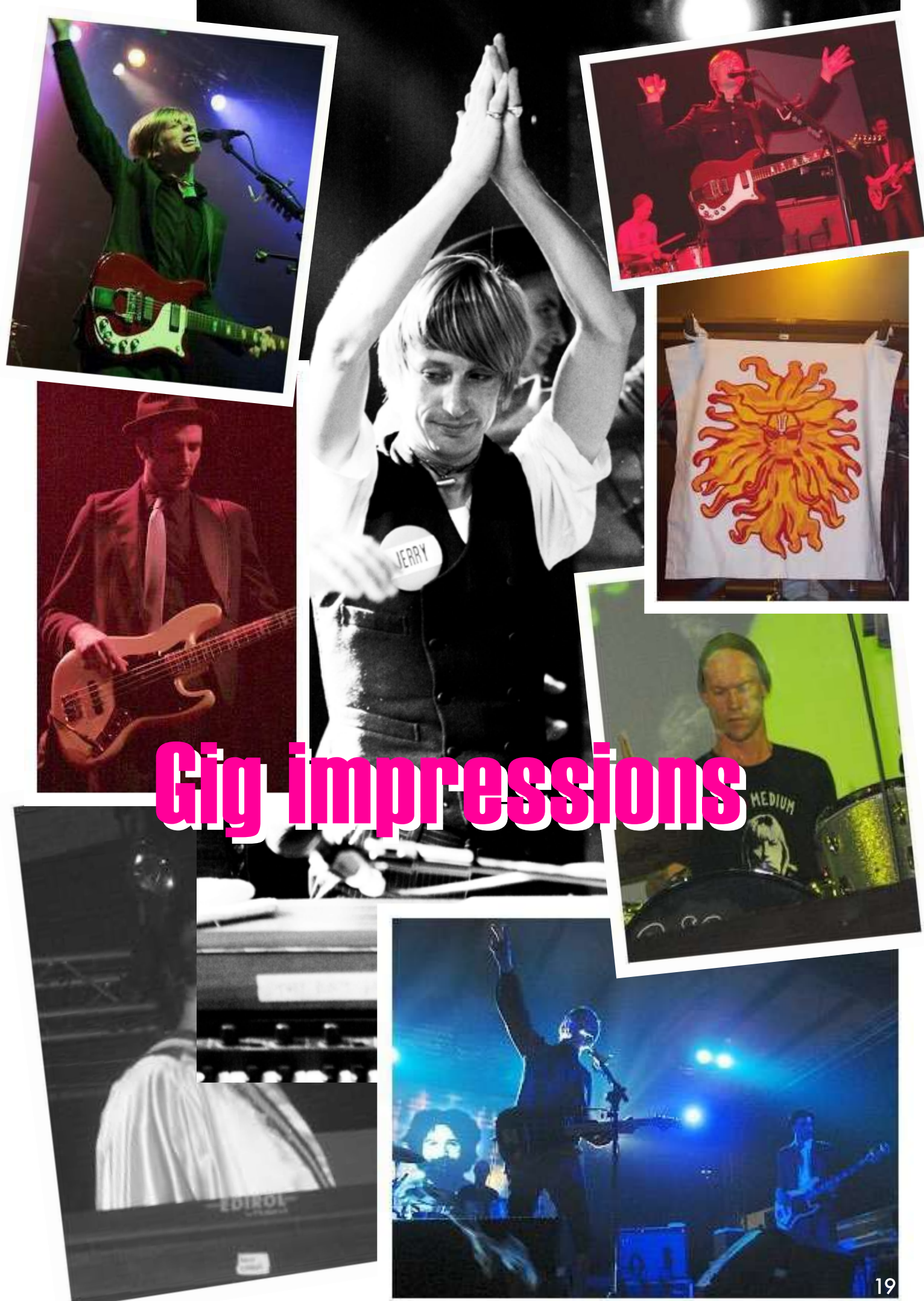
前方右側の場所を確保するのは全然難しいことはありませんでした —— 最前列には数人がいて、残りの観客が立っているところまでは広いスペースが空いていました。基本的にはケルンと同じセットリストで、私達は退屈そうなオランダ人に囲まれていたという現実にも関わらず、ライブを楽しみました。もっ

ともなことだけれど、Crispian は実際におしゃべりではありませんでした。でもそれはパフォーマンスの素晴らしさが不足しているということではありません。もちろん今回は 2 回目のアンコールはありませんでしたが、Kula Shaker を見ることで自体が得ることの出来る最大の贈り物なので、私は、人生に意味を与えるこの比類のない音を、一瞬も逃さずに吸収しました

ライブの後の難しい選択 —— 今回はどの T シャツを買うべきか（彼らが少しのティーカップもヨーロッパツアーの為に残しておかなかったから！） —— そして私達の故郷への長旅が始まりました。今回は苦い後味が残る —— もう楽しみにする Kula のライブはありません。でも、もちろん、その現実でこの数日を台無しにすべきではありません —— 幸運にも、記憶に残る 2 回のライブがあったのだから！

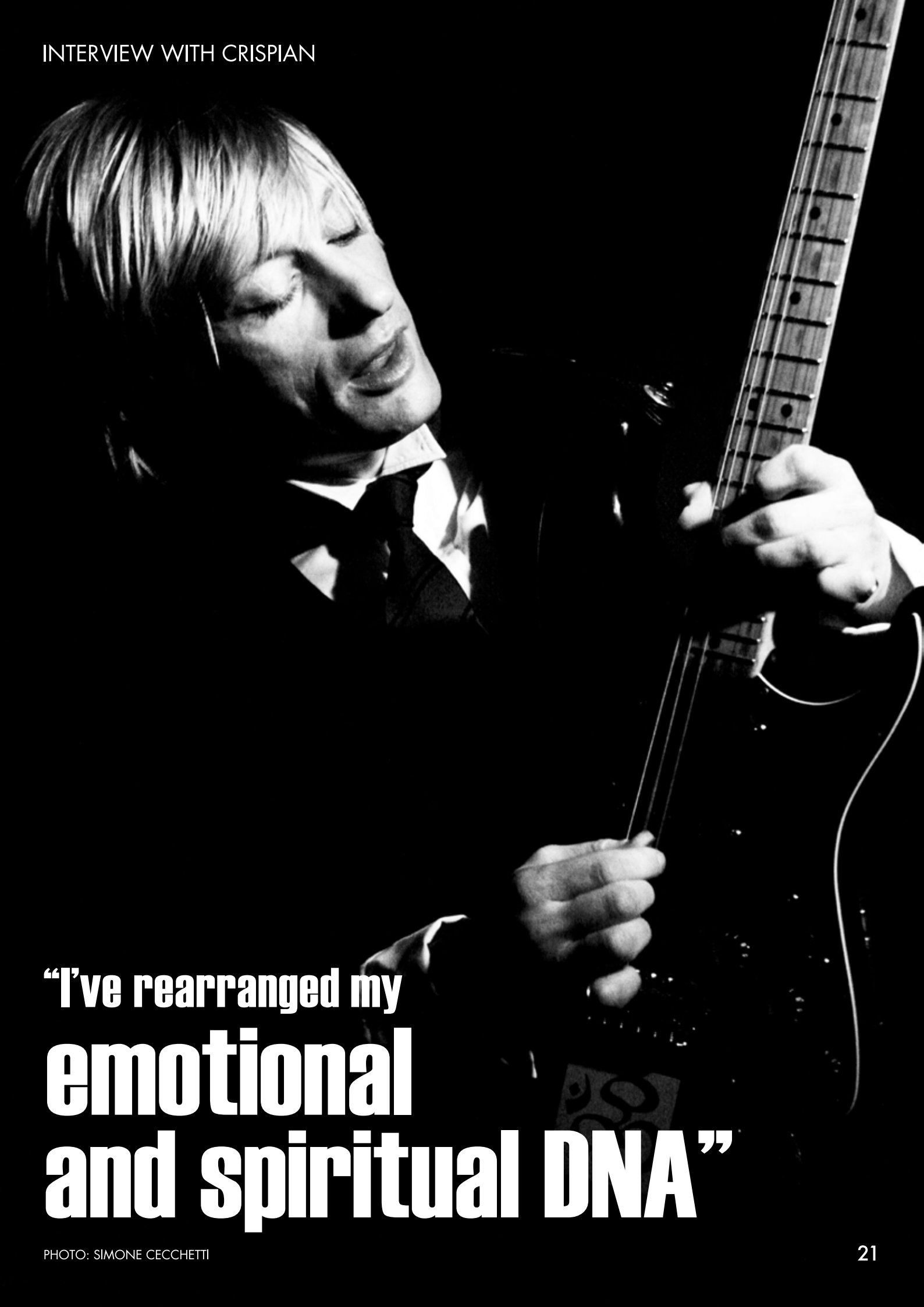
SETLIST Cologne
Hey Dude
Out on the Highway
Second Sight
Jerry was there
303
Mystical Machine Gun
Shower your Love
Hurricane Season
Tattva
Hush
True Love
Song of Love
Dictator
Great Hosannah
Govinda
Temple
Sound of Drums





Gig impressions

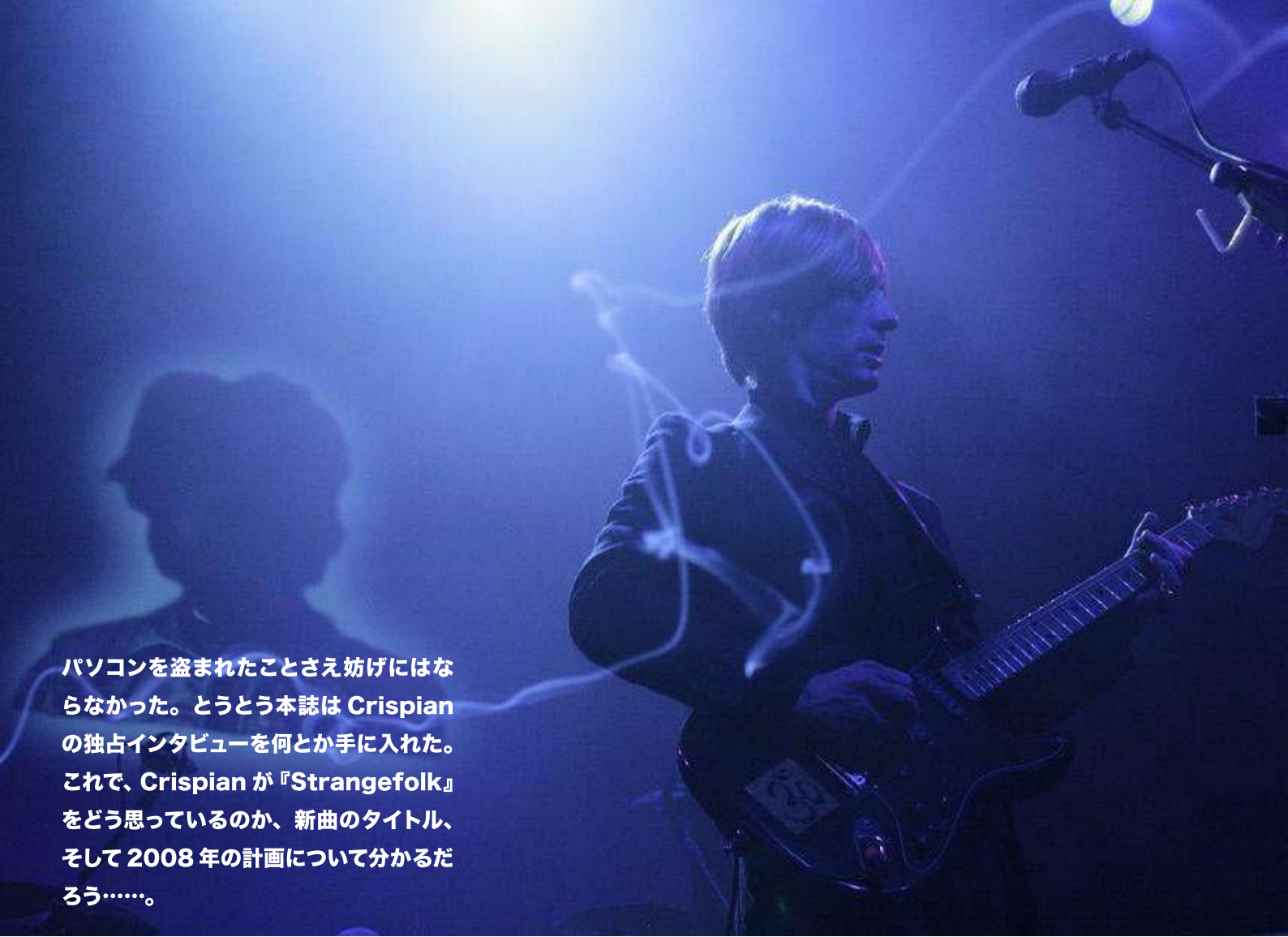


A high-contrast, black and white photograph of a man with long, straight hair, wearing a dark suit, white shirt, and dark tie. He is playing a dark-colored electric guitar. His eyes are closed, and he has a focused, serene expression. The lighting is dramatic, with strong highlights on his face and hair, and deep shadows elsewhere. The background is dark and indistinct.

INTERVIEW WITH CRISPIAN

**“I’ve rearranged my
emotional
and spiritual DNA”**

PHOTO: SIMONE CECCHETTI



パソコンを盗まれたことさえ妨げにはなかった。とうとう本誌は Crispian の独占インタビューを何とか手に入れた。これで、Crispian が『Strangefolk』をどう思っているのか、新曲のタイトル、そして 2008 年の計画について分かるだろう……。

Love, magic, infinite possibilities

By Andrea & Daniel

『Strangefolk』のレコーディングでのハイライトは何でした？ そしてアルバムが発売された今、正直なところどう思っていますか？ 後悔とか色々……。

他の作品へのいい手引きになってるよ、最高の瞬間といいアイデアが入ってる。まさにライブ・アルバムだね、2006 年初旬のツアーの間に書いたりレコーディングしたりした曲が入ってるからね。再起するために作りたかったアルバムだよ。ジャケットもキレイだし！

“Dr Kitt”の背景にはどんなインスピレーションがあったんでしょうか？

Alonza がハーモニカで吹いたリフとアコースティックのデモを持ってたんだ。とてもムーディーでゴシックな感じでね、歌詞が凄く自然に出来たんだ。“Dr Kitt”には Don Pecker 的なものがいくつかあると思うな、歳老いた魔術師や若い弟子とか。

今までで一番クレイジーな Kula Shaker での体験はどんなことでした？

毎日がクレイジーだよ。みんな慣れちゃってるんだよね、一緒

になっちゃってる。日本への旅とか、エアロスミスのサポートとかかな。MTV アワードでコサックを歌ったことはかなりシュールだった。Paul が解散を考えてたってことと、バンドを離れて自分が誰なのか分かったっていうのは相当おかしかったよ。

あなたの信仰はどの程度まで曲作りに影響しているんでしょう？

何を信じようと、そういうものは創造力が泡立つ大釜の中に入るもんだよ。もし何も信じてなかったり、人生を“ただの偶然”だとか“趣味の悪い冗談”だとか思ってたなら、そういう気持ちは結局はバレちゃうもんだよ。僕は愛やマジックや無限の可能性はあると信じてる。

今でも定期的にインドに行っているんですか？

思うほどには行けてないけどね。年に 1 回くらいかな。

Alonza との曲作りの共同作業に関してですが、解散前と比べて何か変わりましたか？

もっとお互いを高く評価するようになったかな、まあ少なくとも僕はそう思いたいな。

たくさんの Kula Shaker の未発表曲が貴重品保管庫に眠っていますが、ボックス・セットとして発売されるのでしょうか？

ああ、たくさんあるね。(貴重品保管庫のことは)“嫁入り道具を入れる引き出し”って呼んでる。使い残しがないかいつもチェックしてるよ、しょっちゅう他の曲と同化しちゃってるからね。だから進行中の曲は発売しないんだ。

経営面では何が起こってるんでしょう？

新しい経営者と契約したところだよ、ヨーロッパの会社で Sinnamon って言うんだ。

“The Companeros” は誰が思い付いたアイデアなんですか？ その背景にはどんな思惑が？

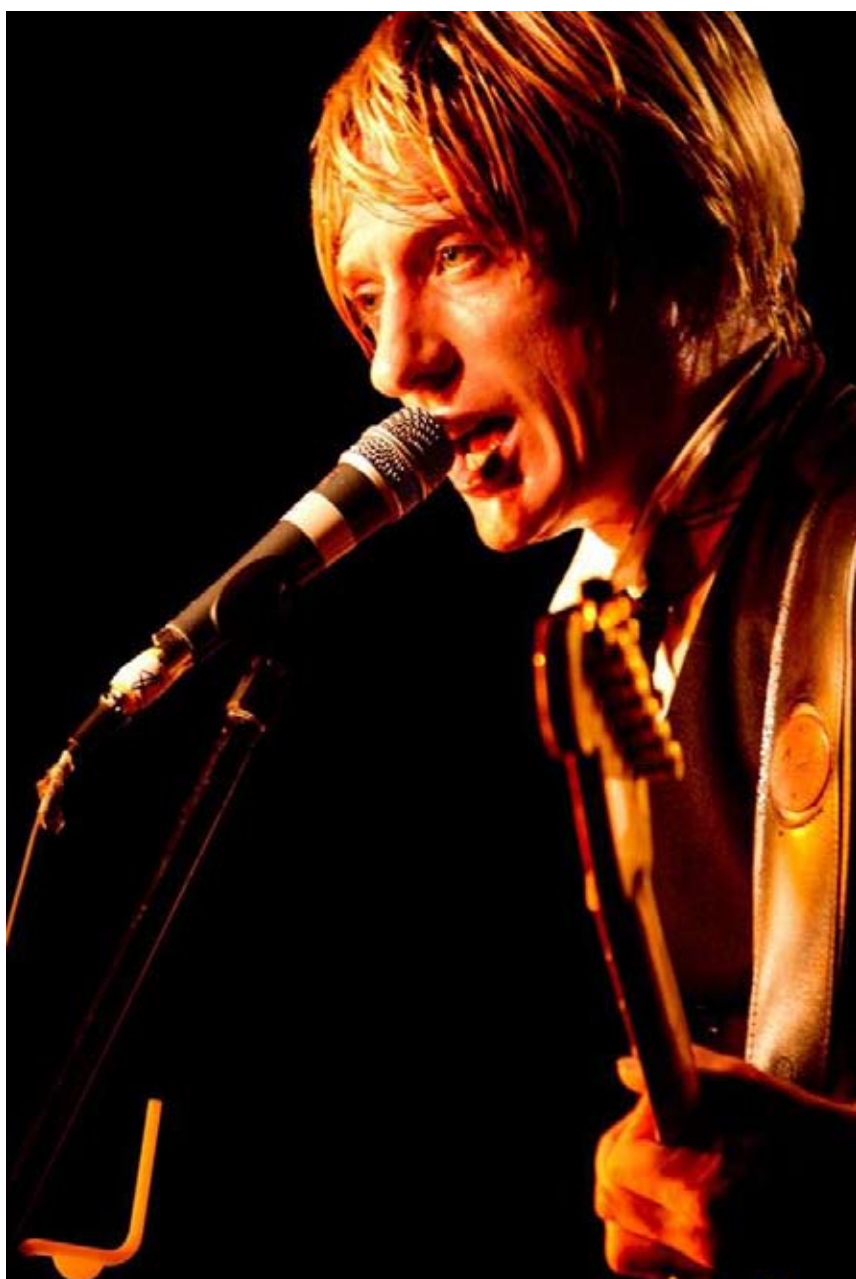
アコースティックな曲を試してみたかったんだ。カヅラをかぶるのはちょっと面白かったね。ちょっとしたエンターテインメントだよ。

2008 年のヨーロッパ・ツアーはどうですか？

観客に会いに出るのはいいね。ホントにあらゆる外見や大きさや年齢の人がいるんだよ。Köln で 2 人の女の子に会ったしね！(※訳注：本誌スタッフの Andreaさんと Anniさんのこと。P.12 参照)

時期尚早ですが、ニュー・アルバムがどんなものになるか何か考えがありますか？ 方向性はどんなりそうでしょうか？

今のところは何とも言えないけど、新境地を目指したいな。おそらくもっとインド風のサウンドが入るんじゃないかな、そう聞いて嬉しいだろうね。



Record Album 4. Have a baby.
Do some festivals.



まだライブで演ってないけどもう書き上がっている、もしくはレコーディングした曲はありますか？

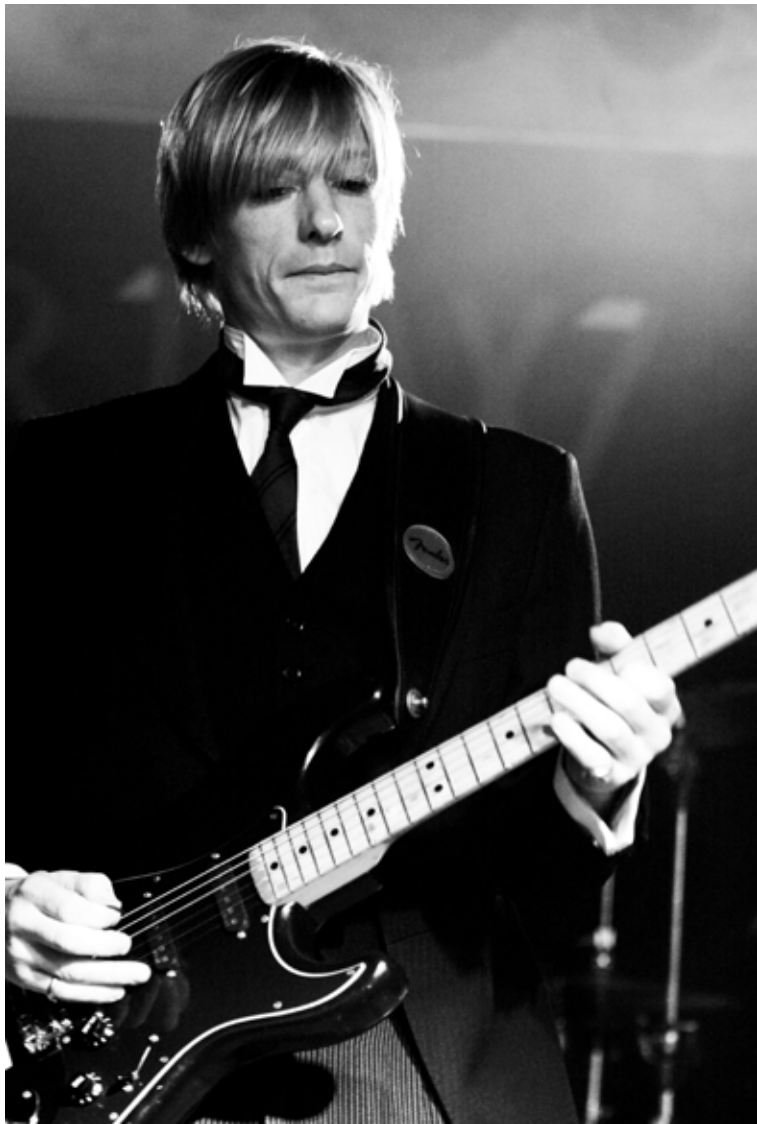
“Baby's got Codeine Sulphate” っていう、咳止めシロップ中毒の彼女についての曲。

ヨーロッパ・ツアーの後、2008 年の計画は？

4th アルバムを作る。子供を作る。いくつかのフェスティバルに出る。

目指しているのはどんなアーティスト、アルバム、曲ですか？

情熱や伝えたい物語、独自の考えを持ったソングライター。例えば、Daniel Johnston みたいなね。



“The Winged Boy” に関して、さらなる進展はありますか？

多分、4th アルバムの後で何とかするよ。もし 500 万ポンドを浪費したいって人に会ったら僕に連絡してくれ。

もし過去を変えられるとしたら何を変えたいですか？

何も！ 過去は変えられないよ、変えられるのは自分自身だけさ。僕は、感情的、精神的 DNA を作り直してるよ。

10 年後はどこにいますか？

南太平洋のどこかな？ 誰にも分かんないよ。

今これを読んでいるファンに何かひとことありますか？

愛とサポートをありがとう。

最後に、いつもインタビューでこれを聞かれないという質問はありますか？ もしあれば、それはどんなことで、どんな回答でしょうか？

ないよ、このインタビューは良かったよ。みんなありがとう！

Ü 35



“Kula Shaker kick Oasis’ arse!”

我々は、十分なファンの讃歌を聞いてきました。さあ、意地悪な批評を見てみましょう。
ヨーロッパのジャーナリストは、Kula Shaker の最近のライブをどう思ったのでしょうか？
恐れなくてください。悪いものばかりではありません。

“Out On the Highway” や “Second Sight” と
いった彼らの完全なロックサウンドを備えた楽
曲は、その音楽の才能と共にあり、Empire (※)
の高い天井(までの空間)を満たしてなお余りあっ
た (※ 訳注: 2008 年 2 月 8 日の Shepherds
Bush Empire 公演のレビューと思われる)。[中
略] 全体的に見るとしっかりとしたショーであり、
彼らが観客の心を強くつかむポップ・ロックをプ
ロデュースし、演奏し続ける証拠でもある。

MUSIC-NEWS.COM

このバンドは、1996 年からずいぶん成長した。

BBC.CO.UK

(Kula Shaker が) 勢いの良かった時代にレーダーから
姿を消して以来、BLUR と OASIS はその歴史録を独占
していた。今夜、エクセターの The Great Hall で、そ
の歴史録を書き換える必要があると悟った。なぜなら
Kula Shaker は音楽的に OASIS を叩きのめしたからだ！

EGIGS.CO.UK

帰ってきたヤツらは生まれ変わった……彼ら自身として。愛
するか、それとも嫌悪するか。もし今年の後半に、あらゆる
ラジオ / テレビでヤツらを見かけても驚くな。

MUSICOMH.COM

快く、時には甘く、そして、
最近の (音楽) シーンに欠如
している、音楽や人生に対す
る情熱……

BBC.CO.UK

昨夜 Liquid Room で、Kula Shaker は長い間行方不明
だった友のように (観客に) 迎えられた。脈動するショー
は、クラシカルなガレージロック、MC の Kick Out the
Jams で口火を切った。[中略] Kula は、パワーアップし
た改造レースカーのすべてのエネルギーを使って、75 分
間の公演を走り抜けた。

EDINBURGH EVENING NEWS

今夜笑顔で眠った人達は、間違いなく
Kula Shaker のライブに参加したに違ひ
ない。

SOUNDMAG.DE

決して終わるべきではない、旅のようなコンサートだ。

LAXMAG.DE

Guru Madness

In the merry month of May, in the year of our lord 2008



アヴァロニアのウサギの穴の奥深くからキミたちへ！

重要なことを先に。Guru Madness は不殺生のヴェーダの長に留意するよう求める。それは、すべての生き物や時間や知性、許容された状況に対する思いやりや慈悲、そして非暴力だと言える。つまり、すべての生命に対する深い思いやりだ。だが、最も重要なのは牛を殺さないことだ！

節度のない牛の虐殺は恐ろしいことだ。肉食は他のことをも引き起こす。腸ガンだ。だからどうか情け深くあってくれ！ 肉食産業は森林破壊の主な原因の一つでもある。地球温暖化の貢献者だ。

言い訳の余地はない。今が最後のチャンスだ！

マヤのカレンダーでは全てが混乱している。そのカレンダーは 2012 年までしかなく、いや正確には、2012 年 12 月 21 日の午前 11 時 11 分までしかない。つまり、マヤのカレンダーによれば、我々が知るこの世界の終わりはもうすぐそこだ。世界は既に地球規模な不況、崩壊に向かって進んでいる。マスコミの言うことには耳を貸すな。燃料は近いうちに尽きる。遠い未来ではなく、この先数年のうちに（だから目下のところイングランドでは大量の菜種が育てられているんだ。バイオ・ディーゼルにするためにだ）。

我々は不殺生の長をこういったすべての消極性に用いるべきである。善良な騎士が皆、悪魔的な意識を覆すのを妨げるのに、その不殺生の長を使ったように。我々人間の意識は非常に尊いものだ。精神的に高度なレベルに達することが出来き、我々がそれを意識していることをより強く意識するようになるからだ。我々神聖な神の子にとって、意識の単一性は優勢なはずだ。すべての宗教の概念を捨て、美しくなり、すべてのものが崇高なものになれば、この星の外傷は落ち着くだろう。人々は今こそ、自給自足出来るようにならなければならない。地球規模な意識において大きな変化があるに違いないからだ。

だが心配はいらない、勇敢な読者の諸君。Kula の仲間たちが対応に当たっている（そう、そうだ、もう一度この星を救うために！）

というのも、状況が激化したとき、騎士たちは逃げ出したからだ！ だが、安全な精神のヘヴンに行っただけだ。よって、騎士たちは末代まで、暗黒の時代の光となるために戻ることが出来る。我々には数人の騎士しか残されていないが、今や騎士たちはこれまで以上に必要とされている。何故なら、ヴェーダの教えでは、法が腐敗したときは自らの法で制裁を加えなければならないとされているからだ！ 慈悲の心や尊厳（この言葉は間違ってるが）を持つ者たちは、子供たちを救うために出来ることは何であれやらなければならない。ハレ・クリシュナ。ヘヴンの芸術である我々の父よ！ 地球に残っているすべての騎士たちに告ぐ。諸君の身元は秘匿される。だが私を信じてくれ、騎士たちは正当な理由のために戦っている。

また Guru Madness は、すべての安らぎと天から授かった恩恵を日本の明仁天皇に送る。もし気高い天皇が長崎ゴルフコースでの神聖な試合をお望みになるなら、Guru Madness と Crispian は喜んで日本へ飛び、試合をしたり世界の危機について話し合ったりするだろう。だが両者は、すべての航空会社が燃料をサマセットでヒッピーたちから買った再利用の廃油に変更するまで、飛行機に乗ることはないだろう。神聖なるピッピーらしさ、サマセットとイラクサ万歳、我々はイラクサが好きだ！

我々はまた、チャリティー・ゴルフ・マッチに関して、Alice Cooper からの連絡を待っている。我々は Alice Cooper のためにハムスターさえ用意している。

更に Guru Madness は、Newmarket 2000 Guineas (※訳注：イギリスの競馬レースの1つ) の勝者は“Henry the Navigator” (※訳注：馬の名前) であることに最近気がついた。非常に縁起のいいことだ。何故ならば、それは偶然にも Kula Shaker の非凡な専属オルガン奏者の扱いにくい異名だからだ。

多くの神聖な前触れが、競馬の世界から Guru Madness の元へ届く。これを奇妙だと思う者もいるかもしれないが、馬はこの上なく神秘的な存在であり、ユニコーンとケンタウロスに最も近い生き物である。クリシュナと馬には密接な関係がある。というのも、カルキ (※訳注：ヴィシュヌの化身の一つ) の外見を装って転生した際に、クリシュナはデーヴァダッタという名前の神聖な白い馬を得ているからだ。カルキは、偽りの王と予言者を撃退した神聖な騎士である。カルキはカリ・ユガ期の終末に、デーヴァダッタに乗って前進するであろう。すべて (の出来事) は一周して元の位置に戻り、巨大な馬の彫刻がエブスフリートやケントや南部の角に当る地域に今まさに建造されようとしている！

もっと世俗的な話だが、Hobby House (featuring Don Pecker) の新譜は絶賛発売中である。やっとのことでファースト・アルバムが売れているので、どうか引き続き CD を購入し、馬たちを助ける手助けをしてくれ (Hobby Horse の売上金は Tricky Warren horse sanctuary に寄付されてる)。我々はまた、日本国がポケットからお金を取り出してアルバムを購入してくれることを懇願する。

最後になるが、大事なものが情報ルートにある。すべてはとても近いうちに明らかになるであろう。(※編注：何が、いつ、誰がといったことは言えません。言ったら膝を3回撃たれてしまうでしょうから。ごめんなさい)



Hare Hare

The Right Honorable

GURU MADNESS

Crispian's Guitar

やあ、Kula Shaker の機材セクションの最終回へようこそ。今週は主に Crispian のギターについて話そう。

Kula MK II、このギターのセットアップは全く簡素なものだ。遠い昔のマルチ・エフェクト・プロフェッサー、過剰な Fender Twin Reverb アンプ、そしてインナーイヤ式のモニタ。2006 年の再結成ツアーからの Crispian のセットアップは次の通りだ。Fender Twin Reverb アンプ、各種エフェクタや様々なエフェクタ、しかしながら最も顕著なものは、信頼できる Fender Stratocaster である。

さらに正確な詳細は……こうだ。

THE AMP

Fender Twin は、過去数十年に渡って多くのギタリストに選ばれている。3 名ほど例を挙げれば、Steve Cook (Sex Pistols) や Thom Yorke (Radiohead)、Peter Hayes (BRMC) などだ。

2 つの 12 インチ・スピーカーから聞こえるクランチ・トーンは、Mills 氏のお気に入りのようだ。その音は、畏敬の念を呼び起こす Mills 氏のソロやかっこいいリズムを際立たせる。

THE EFFECTS

Crispian のセットアップの柱は、昔も今も、デリシャスなサウンドの Crybaby のワウペダルだ。その音は殆どの Kula のレコーディング音源でハッキリと聞くことが出来る。明らかに、Crispian が 10 代の頃、The Stone Roses や John Squire に熱中していた時に蓄えられていたものだ。

今のところ、Crispian は様々な stomp box を所有しており、ノイズを出したり、時にはただプレーンで奇妙なサウンドを出したりする。Lois という親切なやつのおかげで、我々は Crispian が何を使っているのか知ることが出来た。

「Crispian はいくつかの Moollon 社製ペダルを持ってたよ、トレモロやオーヴァードライブとディストーションが一体化したもの、Moollon ワウなんかに加えて、もう数個 Moollon 社製のものがあったな、ブースト・ペダルとロータス・オクターヴァー、それと Line 6 Delay Modeler だったと思うんだけど」(この情報は Lois と Andrea のおかげだ!)





THE GUITAR

Crispian は、Kula Shaker 時代、The Jeevas 時代、そしてソロの期間を通し、様々な異なるギターを使っている。テレキャスター、レス・ポール、12 弦のリッケンバック 360、そして Crispian お気に入りのあのストラトキャスターなどだ。しかしながら、最近はブロンドの 60 年もののテレキャスターを好んでいるようだ。とは言え、ちよくちよく最愛のストラトキャスター、黒と白の“St. George”モデルのギターを使用している。現在このモデルは、黒いスクラッチ・プレートが誇らしげだ。

これでお分かりいただけただろう。以上、短いが、現代の素晴らしいバンドの、素晴らしいギタリストのセットアップを手短に説明した。読者がこの機材コーナーを楽しんでくれていることを心から願う。私は楽しく書かせてもらった。読んでくれてありがとう。

このコーナーを助けてくれた Andrea、Dan、Mary、Anni、その他のクルーの皆さん、本当にどうもありがとう！みんな素敵だよ！じゃあまた、次の機会に！

EASY!
XXXXXXXXXX

Simon Roberts...

...a smashing bloke

多くの方がご存知のように、Simon Roberts は Kula Shaker のツアーマネージャーであり、ライブの前に魔法を起こす準備をする人です。今回のインタビューから、Kula Shaker の最前線がスムーズに進行する上で、Simon がかなり厳しい役割を持っているということがわかるでしょう。ですが彼は素晴らしい男で、そういったことすべてをマイペースでやってのけているように見えます。そして更に、Pauli の弟の Joff ともまだ何とか都合をつけ、“Bucky the Band” として演奏しています。これを読めば、Simon の Winterhart 家との交友関係や、Martini での前座の Harry について分かります。これらすべてのこと、そして、タンバリンの名手であり、何とか Nag Champa (※訳注：Kula がステージ上で焚いているお香の名前) を燃やし続ける男からの更なる話が……。

Let the magic happen

Simon、あなたと Joff との以前の会話で、自分たちのバンド名を Bucky に決めたことについて話してくださいね。Captain America[※]の相棒である Bucky Barnes[※]にちなんでということでしたが、そもそも、どうしてあなたと Joff は Bucky を結成したのでしょうか？

(※訳注：Captain America は、複数のアメコミに登場する架空のヒーロー。相棒の名が Bucky Barnes)

以前はもっと色んな名前があったんだけど(そのうちの2つは“Fighting and Onions”と“Big Bad Crayon”)、長く続いたのは Bucky だけだった。僕らは2人ともパイプ喫煙者の、天才 Buckminster Fuller(ニックネームは Bucky)が好きなんだ。彼は実に奇抜な空想家であり、ジオディック・ドームやダイマクション車を発明した人であり、バッキー・ボールの発見者でもあるんだ(調べてみて!)。それに、僕の妹は赤ん坊の頃に Bucky って呼ばれていたんだよ。なぜなら、彼女が興奮した時にバウンサー(※訳注：上下にジャンプできる乳児の運動具)に反抗(buck)したんだ。それと、もちろん Bucky Barnes と Buckfast tonic wine(※訳注：Bucky と呼ばれるワイン)もそうだね。

僕らは1994年にグラストンベリーの郊外でバンドを結成したんだ。ガレージバンドになりたかったんだけどガレージを持っていなかったから、代わりにベッドルームバンドになったんだよ。僕はブラシで雑誌を叩いて、Joff は兄の Paul の部屋のマウスオルガンを吹いていた。僕が買ったエレキギター(Azumi社製!)を友だちが売ってたことに気付いて、そして Paul と彼の父親のものが少しずつ入ったドラムセットを Joff がプレイする日までね。演奏は酷いものだったけど、その後4年間楽しく曲名を考えたり、馬鹿げた写真を撮りあいつこしたり、“正しい”バンドでいることなんて気にすることなくいつも騒がしい音を出していたよ。実際にライブをするまでどれくらいかかったかと言えば4年間って言うけれど、正直なところ僕らはそうやってここ13年を過ごしていたんだ。

あなた達の演奏を楽しく見させていただいたのですが、お二人ともステージで大いに楽しんでいるように見えました。そういう演奏者はいつも見れるものではないですが、あなた達はいつもあのように楽しんでいるのですか？

Joff と僕は学校で出会ったんだけど、仲良くなったのはカレッジに入ってからだったんだ。僕らはお互いのことを知っていたし、17年来の親友みたいだった。だからステージに彼と一緒に立つことはとても気楽なものなんだよ。特に僕ら2人しかステージにいない時はね。僕はライブの前にはアドレナリン濃度も手伝ってすごく緊張してしまうんだけど、それがアコースティックライブだったりすると酷かった(準備をしていればいつもは大丈夫なんだよ!)。本当の苦痛を彼と一緒に味わうんだ、ステージでは隠れられないからね……恐ろしいよ。僕ら2人はくだらないことでライブの前にやきもきするし、予想さ

れるたくさんのことを考えないようにしているから、もしライブが台無しになったとしても後で正当化できるよ。ラッキーなことに殆どの観客は僕らに親切だよ。パフォーマーの多くは、友達とのユニットでバンドを始めるんだと思うけど、人気が出ると、結局確かな生活スタイルを維持するためとか、ローンを払うために、ただ仕事としてやるようなバンドも出て来るし、そんなんじゃダメなんだよ。

僕らのバンドは僕らの生活の中での楽しい部分であるけれど、(生活の)中心というわけではない。だから長年バンドの活動が続けられているんだと思う。時折、解散についても話すんだ。僕らはとても長くやっているし、年もとったしね。でも僕らが楽しんでいる限り、観客が楽しんでいる限り、ブッキングされる限り、僕らは演奏し続けると思う。

以前から Winterhart 一家と良い交友関係を持っていたのですね。みんなが一番始めに出会ったのはいつですか？それが Kula Shaker のツアーマネージャーにまずなるのにおいて手段になっていたと思いますか？

たぶん Joff と僕が初めて会ったのはお互い乳母車の中、ロンドンで、僕らが赤ちゃんの時だよ。彼の家族は僕の家隣の通りに住んでいたんだけど、僕らがグラストンベリーの学校に行くまで知らなかったんだ! 僕が16歳の時に父親が亡くなって、それから Winterhart 一家は僕の第二の家族になった。Joff と親しくなって、彼らと長い時間一緒に過ごすことになったんだ。Kula Shaker の活動より前にね。僕はロンドンで演劇の学位を取るようになって、Pauli は僕が技術スタッフをしていたのを知っていたから、彼らが Kula Shaker と改名した後、彼は機材を運びまわるのを手伝わせたんだ。結局僕は彼らと一緒にいることになった。僕はいつもツアーマネージャーというよりステージテックであって、去年彼らがまた自信をつける間はツアーマネージャーだったけれど、それ以前にたくさんの仕事をこなすんだ。だから Mozza が戻ってきてうれしいよ!





この役割は、ツアーマネージメントを一生の仕事にする決心をするのに役立ちましたか？

僕は最初の頃、プロだと思ったことは本当に一度もないんだ。ヘンだよ、だって、もしふとしたことで友だちのために働くことになったら、時にはちょっと抽象的かもしれないね。KS解散後、他のバンドの仕事をするようになったんだ。KSとの仕事は自信をつけるのに色々な点で役立ったけど、テストステロン（※訳注:男性ホルモンの一種）が余ってる男くさいクルー達と2回のツアーをまわった後、そのライフスタイルにうんざりしてしまった。結局色んなことをちょっとずつやったんだ、庭師、塗装工、室内装飾、祝日ドライバー、アートギャラリーに絵をかけた、地元のコミュニティーの映画、ポップ・ビデオのエキストラをやったり、他にも手当たり次第に仕事をしたよ。特に“Second Sight”のビデオ制作を手伝ったことが楽しかったな。2〜3週間で構想を実際にカタチにするっていうのはかなりの偉業だった。キツイ仕事がたくさんあったよ、集金に走り回ったり、小道具を作ったり、セットを整えたりしたんだ。

以前 Joff と、僕らのバンドの長所と短所について少し熱心に話し合ったことがあるんだ。バンドでお金を稼ぐことが出来るかどうか判断するためにね。でもそうしなくて良かったよ。じゃなかったら今でも一緒に居られたとは思わないから。

ツアーマネージャーとしての責任感、Kula Shakerと共に進歩していると思いますか？

すごく思うよ。彼らが解散した時、僕は Pauli のドラムテックであり、Brett のパーカッションテックだった。タンバリンでさえ叩けなかったんだ、Brett はパーカッションの基本のすべてをカバーしていたからね！ あの時のことを今思うと、1日中僕は何をしていたんだろうと思うね。僕は自分の能力のことをすごく心配していたのを覚えているけど、今回はそんなに心配することはないよ。Jeevas の仕事を通して Crispian のギターのセットアップはよく理解できたから、今回彼に Kula のテックをやって欲しいと頼まれたときはとても自信があったんだ。全員分の楽器のケアをすることになったり、バンを運転したり、タンバリンを叩いたり、それにツアーマネージャーになるだなんて思わなかったけれど！ Kula は素晴らしいけれどね。皆協力してくれたし、今もしてくれてるしね。

Kula Shaker のメンバーについてはひとまず置いておいて、他のバンドのツアーについてまわったことについて伺いたいのですが。

KS の後は、Kirsty MacColl が亡くなる前の1年間、彼女のツアーについたよ。僕はドラマーの Dave Ruffy とパーカッショニストの Michelle Drees の担当だったんだ、二人とも素晴らしいよ。バンドのメンバーやクルー達との仕事は本当に楽しかったよ、特に Mozza と Stig がクルーの一員だった時はね。あとは、Elvis Costello がアイルランドのフェスティバルに出た時に、ドラマーの Pete Thomas についたよ。そのフェスで僕は Bob Dylan と揉め事を起こしたんだ（僕は Bob に対して少し生意気だったけど、でも、彼が失礼だったんだ）。ドイツで有名な Vega4 というバンドの仕事もしたよ（あれは本当に楽しくなかったな）。Straw という愉快的なバンドのツアーはいつもとても楽しかった、もちろん Andy Nixon と Dan McKinna がそのメンバーにいたよ。

Harry は確実にバンドに新しい展開をもたらしましたね。彼は Kula Shaker のメンバーとしてたくさんの人に愛されています。彼との仕事は楽しんでいますか？

Harry は素晴らしいよ。彼の顔ひげは無くなることはないし。今は楽しくやっているけれど、時間をかけて、もう2〜3回知名度の高いショーをやったら、きっと彼はカフタン（※訳注:トルコの民族衣装）姿でうろうろして、ショーの前にマティーニをちびちび飲んで、ヒゲのムダ毛処理をして、彼の座席が暖められているかどうかを確認するんだ！ 冗談だよ、彼にとって不慣れたツアーの状況に対するリアクションを見るのは好きだよ、僕を老いた役立たずになった気分させるんだ！

最後に、1941年3月から世界中が Captain America の愛国心を満喫しました。残念ながら2007年にこのキャラクターは死んでしまいましたね。あなたと Joff はこのことについてどう思いますか？

ええと、子供の頃は好きだったけれど、66年経ってもおそらく彼は十分アメリカに忠実な救世主でいたんだろうしね、きっとかなり質の悪いシナリオが時々あったにちがいないと思うんだ、だから多分、彼が今少し休みを取るのには良いことだよ。それはもちろん、彼らがアイデアを使い果たして、彼の墓から奇跡的に起き上がるまでね。「ふう、全部ただの悪夢だったな……」ってね。

Bucky についての情報はこちらをご覧ください。
<http://www.buckytheband.com/>

EXTRA!

Interview with Paul & Harry

By Yasmin and Tazeen Khatib.

THANKS TO SANDRA HOOD FOR TRANSCRIPTION

10月のある爽やかな夕方、カムデンのKokoでのライブの前に、インタビューのためにPaul WinterhartとHarry Broadbentと同席しました。Winterhart氏が入れた素晴らしい紅茶をいただいてから、Kulaに関することやヘンなことについて話しました。

10年前と比べて、今はどうやって楽曲を作っていますか？

Paul: えーと、作り方? たいていAlonzaとCrispianがそれぞれ別々に曲を書くんだ。で、しょっちゅう相手の曲をいじり回して、それからまたそれぞれが曲を書いて、レコーディングして、保存して……もっとずっとストレートにやるべきなんだろうけど、僕らの性格、おそらく今も以前と同じくらい凄くじれったいんだけど、その性格のせいでそうもいかないんだ。でも苦痛じゃないよ。

Harry: それは過程の一部だと思うよ。もし凄く簡単に出来たらいいものにはならないだろうね。

Paul: たまに、苦労もなく、迅速に、骨を折ることもなくレコーディング出来ることもあるけど。

Harry: うーん、そうだね、たまにはね。でも必ずしも、いいものが出来たってことじゃないよな!?

仕上がりにはいつも満足していますか？

Harry: うん、してるよ。

Paul: 僕はもっとシンプルなやり方の方がいいな。でもCrispianとAlonzaは(音を)何重にも重ねたりするのが好きだからなあ。音を重厚にしたりとか、タンバリンやコーラスを入れたりするのがさ。

Harry: Paulはタンバリンを入れたがらないんだ。

Paul: 時々あの2人はベジタリアン・グースを焼き過ぎるんだよ。

Harry: あの2人はよくやってると思うよ。それに、その意見には同意し兼ねるな、まだ焼き過ぎてはないと思うよ。

曲作りは10年前に比べてより辛いものになっていますか？ それとも同じくらい？

Paul: いや、前ほどじゃないよ。多分当時の僕らはもっと神

経質だったんだろうな。

結成当初、一番影響を受けていたミュージシャンは誰ですか？ 再結成してからそれは変わりましたか？

Paul: Harryのおかげでまったく新しい素敵なサウンドの世界が広がったよ。僕はテクノロジーにはホント弱いからHarryとこに行ってiPodに曲を入れて貰って、それをいっぱい聴いて、どんな曲が好きだったかチェックしてるんだ……僕よりいいCDをたくさん持ってるやつらとたむろしてたんだけど、その中に何でもやるDJがいて、そいつはこの半分くらいの部屋といい機材と机を持って、よくQuincy Jonesとか色んな種類の曲を聴かせてくれたんだ。ソウル・ミュージックとかもね。ここ1~2年そいつに会ってないんだけど……Harryはマイナーなアメリカのソウル・ミュージックを何曲か聴かせてくれたんだけど、そのうちの何曲かがそのとき聴いた曲と同じ曲だった。Harryは他にも風変わりな曲をたくさん聴かせてくれてるんだ。

HarryはKula Shakerに加入する前は全然違うジャンルの音楽をやってたんですね？

Harry: ああ。でも別にそんなに変わらないよ。雑誌なんかに基づいて言うと、僕がやってたのはジャズで、ロックじゃないってことになってる。でも僕は非常に運がいいよ、Kula Shakerは本質的にはある種のジャム・バンドだからね。日によって違うんだ、いつも即興なんだ。毎回同じフレーズを演奏してるようなバンドじゃないから、その時の気持ちによってちょっとは好きにやれるんだ。

Paul: 違うバンドには違ったルールがあって、このバンドにも明確なルールがあるから、やっちゃいけないこととやっていいたくさんのことがあるんだよ。

Harry: そうだね。時々Paulはそのやっちゃいけないことをやってるけど、問題ないよね(笑)

Paul: こないだHenryがこの話をしてたんだ、10代の頃に聴いてた音楽を、その頃に戻って聴くのは凄く楽しいね。昔に戻って聴き直すのは楽しいって、Little FeetとかRushとかその他たくさんのホントにカッコいいバンドを聴いてると思うんだ。

Harry: Rushは僕らが……

何か違いますか？

Paul: 僕ら、Glasgow でホテルを出たときに Rush に会ったんだけど、めちゃくちゃ感激したよ。ただのオタクになっちゃった。Rush ファンにオタクがいなくてわけじゃないけど、僕はもうどうしようもないオタクになってたんだ。何を言ったらいいか分からなかったから、「ライブ楽しんでください」って言ったんだ。「自分のライブに行く途中なんです」って言いたかった。そして即座にあの中年のカナダ人たちのストーカーになってしまった。僕がひざまずいてすっかり感傷的になっちゃうような中年カナダ人はそんなにいないよ!

Harry: 何て言ったらいいか分かんないよ! (笑)

新メンバーの Harry をバンドに馴染ませるためにどんなことをしていますか?

Paul: 変な服を着せる!

Harry: 厳しいダイエット!

Paul: パートタイム・ベジタリアンにしようとしてる。

Harry: 最初から大歓迎してくれたよ……。

ヒゲを伸ばさせてるんですか?

Harry: そうなんだよ、ヒゲを伸ばすよう強制されてるんだ!

レコーディング中はみんな一緒に暮らしていたんでしょうか?

Harry: コテージにいたとき、僕はアンプ部屋で寝てたんだ。

Paul: バンガローだったんだけど、バンガローってコテージほど聞こえがよくないね……。

Harry: 凄い場所だったんだ、文字通り、どこだか分からない場所の真ん中であつたんだ。田舎に行けて嬉しかったよ、散歩に行けて良かった。

Paul: コーンウォールにあるんだ。

Paul: アルバムの半分以上の曲をそこで録ったよな?

Harry: ベストなものはホントにそこで出来たね。

Paul: 同じ曲を Tchad Blake ともやったんだけど……仕事をする時間が凄く限られてて凄く短かった。

Harry: Alonza は夜中の1時頃まで作業に取りかかれなかったんだよ。

Paul: Crispian もね。



Harry: あの状況は贅沢だね、この世で一番快適ってわけじゃないけどね。でも寝たり食べたりレコーディングしたり、何かしたいときはいつでもそれが出来るからホントに贅沢だね。お金や時間に縛られないし、みんなそこにいるし、必要なものはそこにあるし。

Paul: 最初の期間は短かった。たった10日間しか Real World (※訳注: そのスタジオの名称) にいなかったんだ。

Harry: Unreal (アン・リアル) World だったね。

Paul: ちょっと豪華過ぎたね。おいしい食べ物、いい雰囲気、びっくりするくらい凄い機材。

Harry: とてつもなく豪華だった。

Paul: あと、Tchad は自分が作る音に対して凄くハイテクを駆使してるね。僕らはそのどこだか分からない場所の真ん中に行って座って、みんなワクワクしたよ。長時間作業が出来ることとか、その他のことが出来ることにね。自分たちが料理したんだけど、そうするのは最高に嬉しかったよ。だってつまり、誰にも指図されないってことだからね。そこには2週間いることになってたから行く前はちょっとナーヴァスだったけど、快適だったよ。

最新アルバムは、前2作に比べてよりラブ・ソングが特徴になっていますが、何か理由があるんでしょうか?

Paul: それは Crispian に聞いた方がいいよ、間違いなく Crispian が大好きなテーマだから。

Harry: Crispian は時代遅れのロマンチストだからね。

Paul: 僕が思うに、今いる世界への反発じゃないかな。というのも、取りかかった頃は過剰なまでに死が特徴になりそうだったから。

Harry：そうだよ、最初にレコーディングを考え始めた頃は死に関する曲が9曲あったな！それで僕らは、多過ぎるかもしれないなって思ったんだ。

死後の世界は信じますか？

Harry：うーん、何て質問だよ！

Harry：どうかな、分かんないな。と言うしかないね。

どっちつかずですか？

Harry：何も分からないのに死後の世界を信じるとか信じないとか決めてしまうのはよくないと思うんだ。手がかりのない直感の中に、光り輝く驚異があると思う。コントロールしてないし、何でも起こりうる。言いたいこと分かる？

ええ。

Harry：感覚的なものだよ。神経質な存在を想像してるっていうより、むしろ、何を信じたらいいか分からないという感じかな。

Paul：僕は死後の世界は信じてるよ。妻のことは前から知ってたと思ってる。前世での僕らはあまり上手く行かなかったんだ……。

Harry：凄く興味深いね。

Paul：うん、つまり……。

Harry：時々、ごめん (Paul をさえぎって)、そういうことを信じるときもあれば、信じないときもある。例えば迷信のようにさ。物事が上手く行かないと、みんなよく迷信を信じて、これがその起こった出来事の原因なんだって思い始めるよね。僕は上手く行かないときは迷信を信じるけど、そうでない時は全然信じてなんかないし、ナンセンスだね。

要約すると運命ということになると思うんですが。自由意志 VS 運命。

Harry：でも同様に、僕は完全に自由意志をコントロールしてると感じるときもあるし、またある時は、自分自身や自分の性格、自分が継続的に何度も繰り返してる間違いなんかを考察したりする。それは運命だし、明らかに僕は自分の言動を何もコントロールしてない。だって僕は、同じ失敗を何度も繰り返してるか、良いことをしてるだけだからさ。

すべて同じようなことでしょうか？ 避けようとしていても顔を殴ってしまうような？

Harry：ああ、でも、自分に起こることは何だって変えることも出来るよ。実際自分自身が起こしてるんだから。そういったことは自分で計画してるもんだよ。実際に自分の身に起こっていることの感じ方とか。だって、自分で計画したことがた

だ戻って来るだけなんだから。分らないけど、それが僕がどっちつかずでいる理由だよ。

演奏して一番楽しい曲は何でしょうか？

Harry：よく変わるんだけど、今は Song of Love。いつも上手くいってるみたいだよ。

Paul：僕はその曲は気が乗らないな。Hurricane Season が好きだな、それはもうちょっと上手くいったよ。

Doctor Kitt は誰なんですか？

Harry：僕らの友だちの気まぐれなアイディアだよ。曲の成り立ちに関わりがあるんだ。Crispian がいじれるように Alonza がデモを作ったんだけど、メロディのアイディアを大げさに歌ったりちょっとハミングしたりしてあってね、その Alonza の声が Eartha Kitt と Dr. John を足して2で割ったような感じだったから、そこからその仮タイトルがついたんだ。

もし300年後にあなたの子孫が開けるタイムカプセルを埋めるとしたら、何を入れますか？

Paul：紅茶と、Bitches Brew、えーと、60年代の写真は何枚か、もしくは1830年代の。

Harry：違う時代の！ 違う時代の写真！？

Harry：紙巻きタバコをちょっと入れて、それがどんな感じなのか、未来のものとどう比べられるのか予想する。

Paul：品種改良された氷漬けの虎のペアを2組。

Harry：うわ、氷漬けのかよ！

幽霊は信じますか？

Paul：幽霊についてよく考えてるんだって触れ回るつもりはないけど、僕は Alonza と一緒に303号線にいたんだ。Crispian のバンで303号線を走ってたんだ、昔、両親に会いに頻繁に実家に帰ってた頃……僕らが売れる前、93～94年頃の話だよ。グラストンベリーに向かってたんだ。何で Crispian のバンで走ってたのか分からないんだけど、間違いなく Crispian のバンだった。普通で走ってたんだ。ストーンヘンジから60～70マイルくらいのところを走ってたら、突然、急に、前方に自転車選手の幽霊のようなものを見たんだ。透けてたから、本物の自転車選手じゃないって分かったし、午前2時だったから、実際に自転車選手がそこにいるんだなんて心配するようなこともなかった。そして、見たのとほぼ同時にそれを通り抜けたんだ。理性的に考えて、思い過ごしに違いないと思った。霧だったんだろうな、って。で、5分後に Alonza に聞いてみたんだ、「さっきのあれ見た？」って。そしたら「見た」って言うんだよ。僕らの前に像があって、それを通り抜けたちゃったんだ。

これから音楽業界に乗り出す新人バンドたちに、何かアドバイスがありますか？

Harry：僕は Kula Shaker に参加出来て凄くラッキーだよ。一瞬にして中心になるファンが出来て、凄くラッキーだよ。でもやっぱりあらゆる類いの浮き沈みがあるんだ。大きな会場でたくさんの観客の前でライブをやるとかいうことよりも、クリエイティブな面に専念するのが一番だね。

Paul：自分がやりたいことをやる。

Harry：上手くやれることをやって、創造的でいる。

Paul：僕はラッキーだよ、やりたいことをやってる……何かであろうとすることにプレッシャーを感じたことはなかったしね。僕らは何者なのか、何をするのかっていうぼんやりしたアイデンティティーは、ある意味では幅が狭く、ある意味では広幅が広い。それが何なのか知るのには難しいね……それを知るのはいいいことだけだね。幅が狭かろうと、商業的であろうと、ある一定の速度の範囲内であれ、何であれ。もし、とてつもなく広がったり、実験的だったりしたら、いいことのひとつは、自分の限界値を自分で設定できるってことかな。手に入れたものをどう壊すかとか、どれだけ分別のある人でいられるかとかね。

Harry：意見を言ってくれる誰かがいつも遠くにいてくれたら都合がいいんだけどね。

Kula Shaker にはどんな未来が待ち受けていると想定しますか？

Paul：自分たちに忠実でありたいな。

Harry：制作活動だと思うな。

Harry：あと、もっとたくさんのジンジャー・ビール！

STRANGE AND RANDOM TRIVIA

好きな食事は何でしょうか？

Harry：前はパンとチーズが好きだったな。

Paul：メロン・パルミジャーノ。

Harry：カレーだね、カレー大好きなんだ。

好きな飲み物は何ですか？

Harry：全部違う作用があるんだけど、赤ワインは凄くおいしいし、リアル・エールもギネスも素晴らしいし、ウイスキーも凄く良い。でもウイスキーは飲む時間を誤ると強烈だね。

かなり強烈だよ。ストレートで飲んじゃったら、何か、えーと、もしウイスキーを飲み過ぎたら、コカインみたいだよ。眠れなくなっちゃうんだ、凄いよ。

最近読んでいる本は何ですか？

Harry：今は Cavallius と Clay の素晴らしい冒険ものを読んでるよ。

Paul：いい本だよ。

Harry：村上春樹にかなりハマってるんだ、凄くいいよ、チェックしてみて。

Paul：僕は Crispian の家から借りて来た Eric Fromm の本を読んでる。凄くゆっくり……毎日 2 ページくらいずつ読んでるよ。

Harry：Alonza は『A History of Europe』を読んでるんだ、僕が彼と会ったときからずっとだよ。飛行機に乗る度にその分厚い本を取り出して開くんだ。Alonza は読み終えようとしてるけど、読み終わらないと思うなあ。

Paul：同じページを読み返してるだけだからね。

Harry：凄く賢く見えるよ。

好きな映画は何ですか？

Harry：今まで見た中では『ジョーズ 1』が最高だったよ。

THANKS FOR READING!



STRANGE FOLK PICTURES PRESENT

KULA PARK

MORE MADNESS TO COME!



CRISPIAN



ALONZA



PAUL



HARRY

ALSO STARRING



JO



DON



SIMON



DR. JOEL

OMAGICAL FILMS in association with STRANGE FOLK PICTURES PRESENT CRISPIAN MILLS PAUL WINTERHART ALONZA BEVAN
HENRY BOWERS-BROADBENT in KULA PARK - THE MOVIE CO-STARRING MRS JO MILLS GURU MADNESS DON PECKER SIMON ROBERTS
DR. JOEL and „MOZZA“ music by KULA SHAKER THE COMPAGNEADS FOR MORE INFO CHECK OUT WWW.MYSPACE.COM/KULAFANZINE ॐ